

# 柴田学園研究紀要

## Vol.6 No.1

### 目 次

|                                                                                  |    |
|----------------------------------------------------------------------------------|----|
| 奈良 拓哉：柴田学園大学における「数理データサイエンスAI」教育の取組みについて .....                                   | 1  |
| 蝦名 敦子・岡本 由美子・木村 康子：「中庭整備プロジェクト」から始まった学科間の連携<br>— 柴田学園大学短期大学部における実践事例を通して — ..... | 11 |
| 上野 秀人・田中 宏輝：次期学習指導要領を見据えた保健学習の内容構成<br>— 論点整理を手がかりに — .....                       | 24 |
| 上野 秀人・田中 宏輝：「けがの防止」に関わる教科等横断的な保健学習<br>— 養護教諭との連携を通して — .....                     | 35 |

資料

## 柴田学園大学における「数理データサイエンス AI」教育の取組みについて

奈良 拓哉

柴田学園大学 生活創生学部 こども発達学科

### Ingenuity in the “Mathematics, Data science, and AI” Education at Shibata Gakuen University

Takuya NARA

Department of Child Development and Education, Faculty of Human Life Design, Shibata Gakuen University

|             |               |                                                    |
|-------------|---------------|----------------------------------------------------|
| Key words : | 数理データサイエンス AI | Mathematics, Data Science and AI Education Program |
|             | 情報基礎          | Information Fundamentals                           |
|             | コンピュータリテラシー   | Computer Literacy                                  |

#### 要旨

AI は社会生活を営む上で、多様な分野における業務の効率性や利便性を大きく向上させるだけでなく、新しい科学的発見や人間の創造性を高める役割も期待されており、技術の進展と社会実装が飛躍的なスピードで進んでいる。

このような状況を踏まえ、文部科学省は大学等における数理・データサイエンス・AI 教育の取組を後押ししている。デジタル時代の「読み・書き・そろばん」と位置付け、数理・データサイエンス・AI に関する内容を大学等の正規課程に取り入れることを促している。一定の要件を満たした教育プログラムを文部科学大臣が認定する制度を設け、その充実を図っている。

本学では、令和 8（2026）年度の申請に向けて、令和 6（2024）年度より準備を進めてきた。本稿では、これまでの取組の概要と、受講した 1 年次学生へのアンケート調査の結果についてまとめて報告する。

#### 1. はじめに

文部科学省は、「数理・データサイエンス・AI」をデジタル時代の「読み・書き・そろばん」と位置づけ、令和 3（2021）年度より「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」を開始している。AI を理解し活用することにより世界に対する競争力を強化するため、大学教育の中で体系的に人材育成に取り組むよう求めたものである。文部科学省ホームページでは、令和 7（2025）年 8 月までの認定状況を公表している。全国では、データ・AI の基礎的な知識と活用方法を身につけることを目標とした「リテラシーレベル」が 592 件（75%）、応用・活用するための能力を習得することを目的とした「応用基礎レベル」で

は366件（46％）で、青森県内各大学の認定状況は表1のとおり7校である。

表1. 数理・データサイエンス・AI認定制度の青森県内大学の認定状況

| 都道府県 | 設置区分 | 学校名        | リテラシー | 応用基礎<br>(大学等) | 応用基礎<br>(学部・学科) |
|------|------|------------|-------|---------------|-----------------|
| 青森   | 国立   | 弘前大学       | ○+    | ○             |                 |
| 青森   | 私立   | 青森大学       | ○     |               |                 |
| 青森   | 私立   | 八戸工業大学     | ○     |               |                 |
| 青森   | 私立   | 八戸学院大学     | ○     |               |                 |
| 青森   | 私立   | 青森中央学院大学   | ○     |               |                 |
| 青森   | 私立   | 青森中央短期大学   | ○     |               |                 |
| 青森   | 国立   | 八戸工業高等専門学校 | ○     | ○             |                 |

(+印は、プラス選定を受けているプログラム)

本学でも令和8（2026）年度に申請を行うように令和6（2024）年度より準備を進め、令和7（2025）年度にリテラシーレベルを開講した。これまでの取り組みの様子は、令和7（2025）年10月31日に本学を会場に開催した「第31回青森県高等教育機関懇談会兼第25回青森県学校教育関係者合同懇談会」で報告している。本稿では、その際に紹介した内容を中心に本学プログラムの様子を報告する。

## 2. 本学の様子

本学は、「健康栄養学科」と「こども発達学科」、「フードマネジメント学科」の3学科構成である。1学年の学生定員は合計で100名となっており、表2に示す免許・資格が取得できる。

表2. 柴田学園大学の学科別学生定員と取得可能免許・資格

| 学 科                                          | 学生定員 | 取得免許・資格                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 健康栄養学科                                       | 40名  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士国家資格 受験資格</li> <li>・栄養士免許</li> <li>・栄養教諭一種免許</li> <li>・中学校教諭一種免許（家庭）</li> <li>・高等学校教諭一種免許（家庭）</li> <li>・食品衛生監視員（任用資格）</li> <li>・食品衛生管理者（任用資格）</li> </ul> |
| こども発達学科                                      | 40名  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教諭一種免許</li> <li>・幼稚園教諭一種免許</li> <li>・保育士資格</li> </ul>                                                                                                      |
| フードマネジメント学科<br>2023年4月 新設<br>2027年3月 1期生卒業予定 | 20名  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードコーディネーター3級</li> <li>・フードスペシャリスト</li> <li>・フードサイエンティスト</li> <li>・食の6次産業化プロデューサー（レベル2）</li> </ul>                                                            |

卒業後の就職状況を直近の5年でまとめると、管理栄養士・栄養士系が36.2％。高校や中学校・小学校等の教職関係が26.9％。幼稚園や保育士などの幼保系が21.6％となり、本学で取得する免許・資格を活かして就職に結びつける割合が全体の84.7％と高いことがわかる。高校生が進学先を選択する場面で本学を

志望する理由として、取得できる免許・資格が大きなウェイトを占めており、卒業後の進路についても、本学での学びを活かしてその方面へ就く者が多い。

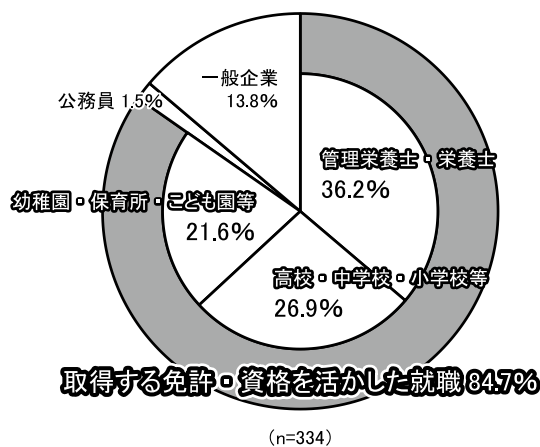


図1. 直近5年間の職種別就職状況

### 3. 数理・データサイエンス・AIのカリキュラムの対応について

本学では令和6（2024）年度まで、情報基礎とコンピュータ操作を学ぶ科目として、1年次の前期に「事務機器演習I」と後期に「事務機器演習II」を開講していた。令和7（2025）年度からは、それらの科目に「数理・データサイエンス・AI」の内容を組み入れ、1年次前期開講を「情報リテラシーI」、後期開講を「情報リテラシーII」と科目名を変更し対応している。どちらも卒業必修科目であるため全員が履修し、令和7（2025）年度はそれぞれ102名が受講している。

表3. 数理・データサイエンス・AI認定制度への対応科目について

| 科目名       | 開講時期      | 履修区分     | 受講者数        |     |      |
|-----------|-----------|----------|-------------|-----|------|
| 情報リテラシーI  | 1年次<br>前期 | 卒業<br>必修 | 健康栄養学科      | 44名 | 102名 |
|           |           |          | こども発達学科     | 42名 |      |
|           |           |          | フードマネジメント学科 | 16名 |      |
| 情報リテラシーII | 1年次<br>後期 | 卒業<br>必修 | 健康栄養学科      | 44名 | 102名 |
|           |           |          | こども発達学科     | 42名 |      |
|           |           |          | フードマネジメント学科 | 16名 |      |

環境面では、授業で使用するノート型PCを入学時に各自が準備するよう求めている。授業ではもちろん、自宅における調べ物学習や自学自習等での学習活動で利用する他、日常生活の中でも利活用することで、PCに早い段階から慣れ親しんで使いこなせるようになることを期待している。学生が所持するPCに求める性能等は表4に示すとおりであり、決して高価で高いスペックを要求するものではない。学生にPCを準備してもらうようになってから今年で5年目となるが、トラブルは全くなく、以前に比べ、授業や学友会活動等の行事運営の場面で、PCを上手く活用している様子を目にするようになった。本学へ入学する学生は、工学系ではない学科の特性と思われるが、どちらかと言えば「数理・データサイエンス・AI」や「PCの取扱い」に苦手意識を持つ学生が多いように感じている。日常生活の中で、積極的にPCを利活用

することで、早い時期からその操作に慣れ親しんでもらいたいと考えている。

表 4. 学生 PC のスペック等について

|            |                                 |
|------------|---------------------------------|
| OS         | Windows11                       |
| ソフトウェア（必須） | Microsoft Word、Excel、PowerPoint |
| CPU        | Intel Core i3 程度以上推奨            |
| メモリー       | 8GB 以上推奨                        |

文部科学省への「数理・データサイエンス・AI 認定制度（リテラシーレベル）」の申請にあたっては、5 つの審査項目が設定されている。

表 5. 5 つのモデルカリキュラム（令和 6 年 2 月策定）

| 項目 |   | モデルカリキュラム対応箇所                         |
|----|---|---------------------------------------|
| 導入 | ① | ・社会で起きている変化<br>・データ・AI 利活用の最新動向       |
|    | ② | ・社会で活用されているデータ<br>・データ・AI の活用領域       |
|    | ③ | ・データ・AI 利活用のための技術<br>・データ・AI 利活用の現場   |
| 心得 | ④ | ・データ・AI 利活用における留意事項<br>・データを守る上での留意事項 |
| 基礎 | ⑤ | ・データを読む<br>・データを説明する<br>・データを扱う       |

本学では、この 5 項目に対し前期と後期に分けて対応する。「導入」の①と②および③への対応として、前期の「情報リテラシーⅠ」の第 3 回目の授業時に、『ビッグデータや IoT、Society5.0』などに触れ、第 4 回目の授業時には、『様々な現場におけるデータ利活用の事例や AI の最新技術の活用例、生成 AI など』に触れている。後期の「情報リテラシーⅡ」では、「心得」の④への対応として、第 13 回目の授業時に「データ倫理や生成 AI の留意事項など」を学ぶ。「基礎」の⑤への対応では、主に Excel を使用して集計等を行い、分散やばらつき、箱ひげ図などにも触れながら実データを扱っていく。他に、前期の第 15 回目と後期の 14 回目には、コンピュータでソフトウェアが動く仕組みに触れながらプログラミングを体験し、データを扱うことも学習する。これらの対応状況を表 6 に示す。

表 6. 5 つの審査項目への対応状況

|          | 回 | 内 容                                                             | 対応   |
|----------|---|-----------------------------------------------------------------|------|
| 前期「情報リテ」 | 1 | 授業概要、PC の初期設定、タッチタイプについて                                        |      |
|          | 2 | ソフトウェアを利用したタッチタイプの練習方法、Google が提供するサービスの利用について、E-Mail について      |      |
|          | 3 | 社会におけるデータ・AI の利活用について①（ビッグデータ、IoT、Society5.0 など）                | 導入①② |
|          | 4 | 社会におけるデータ・AI の利活用について②（様々な現場におけるデータ利活用の事例、AI 最新技術の活用例、生成 AI など） | 導入③  |

|                                   |    |                                                               |     |
|-----------------------------------|----|---------------------------------------------------------------|-----|
| ラシー I の授業計画<br>(シラバスより抜粋)         | 5  | Windows の概要と IME の操作、インターネットによる情報検索について                       |     |
|                                   | 6  | Word の概要と文章入力、ファイルについて (docx、txt、pdf など)                      |     |
|                                   | 7  | 情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドラインについて                                |     |
|                                   | 8  | FONT、表操作、ページ設定、校閲・校正記号について                                    |     |
|                                   | 9  | オートコレクトの設定、インデント操作など                                          |     |
|                                   | 10 | ビジネス文書の構成                                                     |     |
|                                   | 11 | ビジネス文書の作成                                                     | 基礎⑤ |
|                                   | 12 | 図形や写真等の挿入、コピー&ペースト、ドラッグ&ドロップなど                                |     |
|                                   | 13 | Web 上のデータを利用した書類作成                                            |     |
|                                   | 14 | PowerPoint の概要と操作 (スライド作成)、ファイルについて (pptx など)、ファイルの圧縮と展開 (解凍) | 基礎⑤ |
|                                   | 15 | 収集した情報のまとめ (プログラミング : VBA によるファイル結合)                          | 基礎⑤ |
| 後期「情報リテラシー II」の授業計画<br>(シラバスより抜粋) | 1  | 授業の概要、表計算ソフト・ファイルについて (xlsx、csv など)                           |     |
|                                   | 2  | 表操作、オートフィル、相対参照・絶対参照                                          |     |
|                                   | 3  | データの種類や分散、ばらつきなど                                              | 基礎⑤ |
|                                   | 4  | データの集計について① (和、平均、順位など)                                       | 基礎⑤ |
|                                   | 5  | グラフを用いたデータの表現 (棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、箱ひげ図など)                        | 基礎⑤ |
|                                   | 6  | ソフトウェア間におけるデータの相互利用について                                       |     |
|                                   | 7  | 条件分岐について                                                      |     |
|                                   | 8  | データの集計について② (VLOOKUP 関数<近似値検索>)                               | 基礎⑤ |
|                                   | 9  | データの集計について③ (VLOOKUP 関数<一致検索>)                                | 基礎⑤ |
|                                   | 10 | データの集計について④ (並び替え、抽出など)                                       | 基礎⑤ |
|                                   | 11 | データの集計について⑤ (COUNT 関数、COUNTIF 関数など)                           | 基礎⑤ |
|                                   | 12 | データの集計について⑥ (ピボットテーブルなど) 【小規模データ (数百～数千件) を集計・加工する】           | 基礎⑤ |
|                                   | 13 | データ・AI 利活用における留意事項 (データ倫理、生成 AI の留意事項など)                      | 心得④ |
|                                   | 14 | データの集計について⑦ (プログラミング : VBA によるファイル間のデータ集計)                    | 基礎⑤ |
|                                   | 15 | 授業内小テスト、まとめ等                                                  |     |

## 4. 学生へのアンケート調査

### 4-1. 調査方法・内容など

前期の授業が終了した時点で「情報リテラシー I」について、それぞれの学科の授業時間内に無記名形式でアンケート調査を実施した。大きく授業内容についてと、学生本人の到達度について質問し、Web を利用した Google Form で回答してもらった。授業の内容については、『興味関心を惹く内容であったか』と『授業の概要を理解したか』の2つで、到達度については、『PC や OS の仕組みを理解し「Word、PowerPoint」等の操作を通して、PC を自在に操作できるようになった』と『数理・データサイエンス・AI 等に高い関心を持ち、データを適切に活用する基礎的な知識や技能が身についた』という内容である。それぞれ「はい」を4、「いいえ」を1とし、その間の4段階で回答してもらった。他に自由記述として、感想などを記入する欄を設けた。なお本調査は、柴田学園大学研究倫理規則を遵守し、柴田学園大学研究倫理委員会【人を対象とする研究に関する倫理審査委員会 審査不要の判断要件】に該当することを確認して実施した。

表 7. アンケート調査の内容

| 情報リテラシー I のシラバスから |          |                                                                         | 授業は興味・関心を惹く内容でしたか？ | 授業の概要を理解しましたか？    |
|-------------------|----------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------|-------------------|
| Q1                | 授業内容について | 社会におけるデータ・AI についての利活用について①<br>(ビッグデータ、IoT、Society 5.0 など)               | はい 4 3 2 1<br>いいえ  | はい 4 3 2 1<br>いいえ |
| Q2                |          | 社会におけるデータ・AI についての利活用について②<br>(様々な現場におけるデータ利活用の事例、AI 最新技術の活用例、生成 AI など) | はい 4 3 2 1<br>いいえ  | はい 4 3 2 1<br>いいえ |
| Q3                |          | プログラミング：VBA によるファイルの結合<br>(PowerPoint)                                  | はい 4 3 2 1<br>いいえ  | はい 4 3 2 1<br>いいえ |
| Q4                | 到達度について  | PC や OS の仕組みを理解し「Word、PowerPoint」等の操作を通して、PC を自在に操作できるようになった。           | はい 4 3 2 1<br>いいえ  |                   |
| Q5                |          | 数理・データサイエンス・AI 等に高い関心を持ち、データを適切に活用する基礎的な知識や技術が身についた。                    | はい 4 3 2 1<br>いいえ  |                   |
| Q6                | 感想など     |                                                                         | 自由記述               |                   |

#### 4-2. 結果

調査の結果、100 名から回答を得た。最初の質問は、「ビッグデータや IoT、Society5.0」に関するものであるが、『興味・関心を惹く内容であったか』の質問に、4 と回答した者が 44 名、3 と回答した者が 53 名で、合計 97 名が肯定的回答をした。また、『授業の概要を理解したか』の質問には、4 と回答した 41 名と 3 と回答した 56 名の合計 97 名が肯定的回答をした。

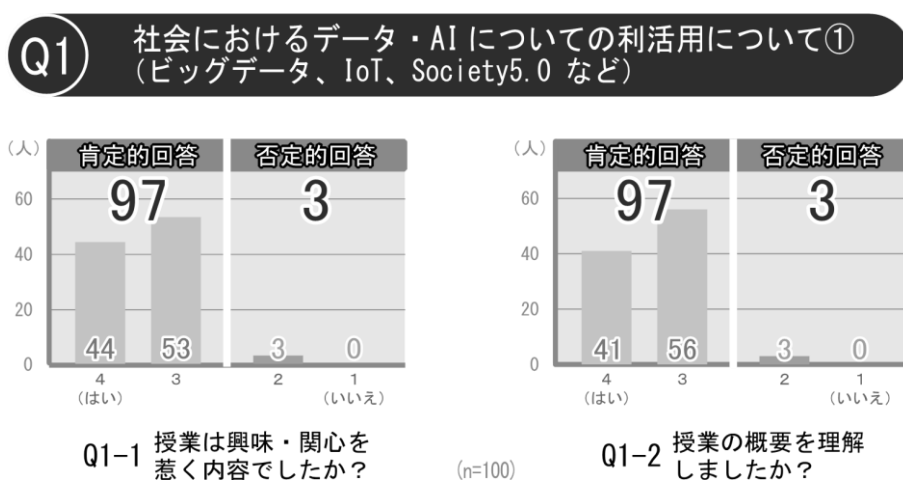


図 2. Q1 のアンケート調査の結果

問 2 は、「様々な現場におけるデータ利活用の事例や、AI の最新技術の活用例、生成 AI などに触れる内容」であった。『授業は興味・関心を惹く内容であったか』の質問に、肯定的回答が合計 98 名で、特に 4 と回答した者が多くあった。『授業の概要を理解したか』の質問では、こちらも肯定的回答が 98 名であった。

**Q2** 社会におけるデータ・AI についての利活用について②  
(様々な現場におけるデータ利活用の事例、AI 最新技術の活用例、生成 AI など)

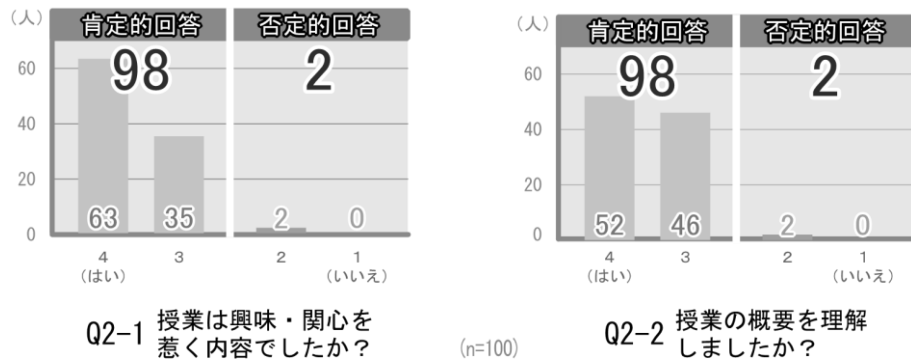


図 3. Q2 のアンケート調査の結果

問 3 は『プログラミングに関する内容』である。一般的には「Python」などのプログラミング言語を用いることが多いと思われるが、学生 PC へのインストール作業に伴う時間のロスを考え、すでに全員の PC にインストール済みである「Microsoft Office」を利用し、VBA (Visual Basic for Applications) でプログラミングの基礎に触れることにした。プログラミングの基本処理となる 3 つの制御構造である「逐次処理」、「条件分岐」、「繰り返し処理」や、変数、ソースコード等についての説明の後、生成 AI に指示して作らせたソースコードを貼付して実行させた。将来目指す職業を意識した内容として、児童・生徒の一人ひとりが作ったと仮定した 10 個程度の PowerPoint データファイルを連結して、一つのファイルにまとめる内容である。一瞬で連結される結果を見て、興味深く受講していたように感じた。また、プログラムによって作られた AI がプログラムを作る現実を見て、感動している様子も見られた。

『授業は興味・関心を惹く内容であったか』の質問に、肯定的回答が 94 名。『授業の概要を理解したか』の質問では、93 名が肯定的回答を示した。

**Q3** プログラミング：VBA によるファイルの結合 (PowerPoint)

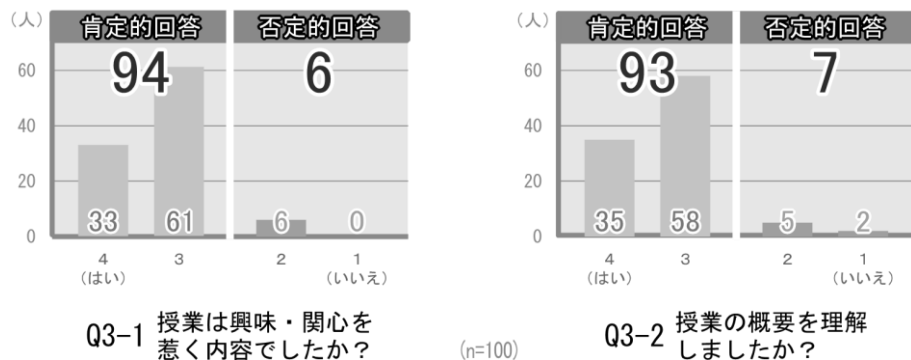


図 4. Q3 のアンケート調査の結果

学生自身の到達度に対する質問では、『パソコンや OS の仕組みを理解し、「Word、PowerPoint」等の操作を通して、パソコンを自在に操作できるようになったか』の質問に、91 名が肯定的回答をしている。入学してまだ半年しか経っていない状況であることを考えると、多くの学生が PC 操作に自信を持って向かっ

ている状況を伺い知ることができた。

**Q4** PC や OS の仕組みを理解し「Word、PowerPoint」等の操作を通して、PC を自在に操作できるようになった。

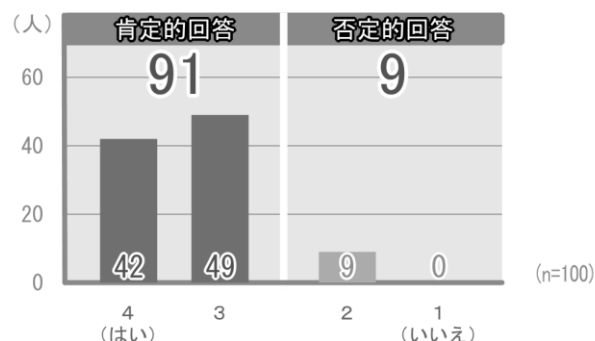


図 5. Q4 のアンケート調査の結果

問 5 の『数理・データサイエンス・AI 等に高い関心を持ち、データを適切に活用する基礎的な知識や技能が身についたか』の質問には、肯定的回答は 88 名となった。これまでの回答から見ると否定的回答が多い。これは、プログラム自体に触れたことがない学生が多かったため、生成 AI に作らせることは理解しても、プログラミングそのものを難しいと感じたことが理由と考えている。

**Q5** 数理・データサイエンス・AI 等に高い関心を持ち、データを適切に活用する基礎的な知識や技能が身についた。

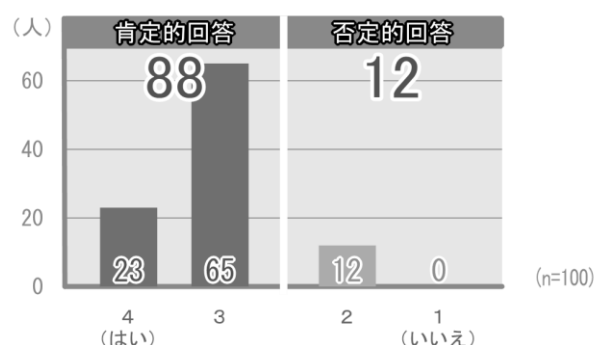


図 6. Q5 のアンケート調査の結果

問 6 の自由記述の感想では、否定的な意見は全くなかった。回答内容に応じて「知識・技能に関する内容」「興味・関心に関する内容」「その他」に分け、いくつか紹介する。

< 知識・技能 >

- ・パソコンの知識に乏しい私だったが、この授業で自信をもって操作できるようになった。
- ・実際にパソコンに触れながらの説明が多かったため、理解しやすかった。また、教わった技術がどこで、どのように活用されているか具体例をあげながらの内容だったため理解が深まった。授業を

受け、数理・データサイエンス・AIについて知り、知識・技術が成長できたと思う。

- ・以前よりもパソコンを使う機会が増えた。
- ・入学した時に比べてパソコンでできることが多くなった。
- ・高校で学んでこなかった内容を学べ、できなかった操作ができるようになった。
- ・毎回パソコンを使った作業の時間があり、楽しく学ぶことができた。

< 興味・関心 >

- ・AI などについての知識をもっと身につけたいと思った。
- ・AIなどをうまく活用していく必要があることがわかった。
- ・興味の湧く内容が多くて楽しかった。
- ・AIを活用する能力だけでなく、AIの情報を確認し、修正する能力（知識・技能）も必要であることを学んだ。
- ・AIの使い方をもっと学びたいと思った。
- ・コンピュータについてもっと詳しくなりたいと思った。

< その他 >

- ・生成AIについて授業で学べることはとても良いなと思った。
- ・AIを活用してみて、私が考えて書くよりも早く、表現力の高い文章が作成でき、とても便利だと感じた。AIを活用する能力のみならず、AIの情報を確認し修正する能力も必要であることを学んだ。
- ・いまよく使われている生成AIについて、改めて授業で学べることはとても良いと思った。
- ・AIは勉強の時や文章作成に困ったときに活用していたので、授業の内容はとても興味深かった。今後もAIは発展していくと思うが、仕事が奪われるなどのリスクもあるため、メリットやデメリットを学び、うまく活用する方法を身につけるべきだと思った。
- ・AIなどをうまく活用していく必要があることがわかった。

図7. アンケート調査、問6の結果

#### 4.3. 考察

アンケート調査の回答で「授業は興味・関心を惹く内容であったか」の質問に、94%以上が肯定的回答を示した。AIが生成した音楽や動画、画像を紹介したときは歓声が上がり、興味・関心の高さを実感した。また学生からは、実習先にお礼の手紙を書く場面が必要となる、ビジネス文書の作り方を教えて欲しいとの要望がある。授業では最初に、頭語と結語の組み合わせや時候の挨拶など、本文の構成や全体的なレイアウトなどを説明し、学生それぞれが作成する時間を設けている。学生は隣同士で相談しながら40分以上時間をかけて作成している。その後生成AIに指示して作らせると、一瞬で作られるそのスピードと内容に歓声が上がり驚く様子が見られた。ここでも興味の持ち方が一段階上がったように感じた。

「授業の概要を理解したか」の質問についても、大多数が4又は3の肯定的回答であったが、「プログラミング」の内容や「到達度」については、2又は1の否定的回答も見られた。このことについては、後期の授業の中で、さらに理解がすすむよう工夫したいと考えている。しかし、全体的に肯定的回答が多かったのは、学生の感想にもあったように、自身が所有するPCを操作しながらの授業形態が、理解と関心を深めたと考えている。

## 5. まとめ

本学を志望して来る学生は、どちらかと言えば「数理・データサイエンス・AI」等の内容や、「PC 操作」等をこれまで避けてきた学生が多かったと思われる。しかし、取得する免許や資格に関連した実データや実課題をもとに学習を進めることで、興味の持ち方が変わり、意欲的に学ぶ姿勢が多くで見られたと感じた。これらのことから、本学のような工学系ではない学部・学科においても、学科の特性に合った具体例を示しながら、習得した内容を学生自身が逐次確認できるといった方法が、良い効果を上げたと考えている。

## 謝辞

本稿の執筆に際し、細部にわたる丁寧なご添削と、鋭いご指摘をいただいた吉澤結子学長先生に、心より感謝申し上げます。

## 利益相反

本研究に関する利益相反はない。

## 引用文献

文部科学省, 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度,

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/suuri\\_datascience\\_ai/00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00001.htm)

文部科学省, 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 認定・選定校一覧,

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/suuri\\_datascience\\_ai/mext\\_00005.html#02](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/mext_00005.html#02)

(受付 : 2026 年 1 月 27 日、受理 : 2026 年 3 月 25 日)

自由投稿

「中庭整備プロジェクト」から始まった学科間の連携  
—柴田学園大学短期大学部における実践事例を通して—

蝦名敦子<sup>(1)</sup>、岡本由美子<sup>(2)</sup>、木村康子<sup>(3)</sup>

柴田学園大学 短期大学部 保育科<sup>(1)</sup>、柴田学園大学 短期大学部 生活科<sup>(2)</sup>、

柴田学園大学 短期大学部 生活科<sup>(3)</sup>

Interdepartmental Collaborative Classes Built from a Courtyard Improvement Project:  
A Case Study at Shibata Gakuen University Junior College

Atsuko Ebina<sup>(1)</sup>, Yumiko Okamoto<sup>(2)</sup>, and Yasuko Kimura<sup>(3)</sup>

Department of Early Childhood Education, Shibata Gakuen University Junior College<sup>(1)</sup>

Department of Living Science, Shibata Gakuen University Junior College<sup>(2)</sup>

Department of Living Science, Shibata Gakuen University Junior College<sup>(3)</sup>

Key words: 「中庭整備プロジェクト」 ‘Courtyard Improvement Project’

環境授業 Environment Classes

食育 Nutrition education

要 旨

「中庭整備プロジェクト」が保育科「環境」の授業に取り入れられ、3年目に畑を充実させたことから生活科教員との連携が授業を通して生まれた。保育科「環境」の授業で畑をつくり、サツマイモと枝豆を収穫し、それらを後期に同学生が受講する「子どもの食と栄養」で調理をして食した。そしてその授業に食品学の教員も加わり、食材の理論的な裏付けについて学ぶという、学科の垣根を超えた授業が構築された。本稿の目的はその授業実践を振り返り、成果と今後の課題について抽出することである。方法論として、各担当授業の内容を振り返り、学生のワークシートを検証した。成果は、学生に環境と生活科の内容を結び付けた食育に関する総合的理解がなされたことで、課題は、現場の視点を取り入れた幼児の学びに繋がる工夫や、保育士と栄養士の連携についても今後視野に入れることである。そのためにも教員の連携を強め、専門性をさらに活かしていく必要がある。

## 1. はじめに—先行研究、問題の所在、本考察の目的と方法

### 1.1 先行研究—保育科と生活科の連携は授業にどのように反映されているのか

幼稚園や保育園等で、野菜を育て子供たちが収穫をし、その野菜を園で調理して食事に提供するなど、各園で子供の食育を進めている事例は多い。また子供の食に関する研究や、『幼稚園教育要領』で規定されている5領域の一つの「環境」で、野菜の栽培などを取り上げているケースも多く、それらに関する研究は既に行われている。しかしながら、保育者養成の短期大学で学生を対象とした、授業が連携し合って「環境」から保育の「食育」に繋がるような実践例や考察は、先行研究として見つけることはできなかった。

本考察は、柴田学園大学短期大学部で独自に生まれつつある、教員の連携による授業の構築について振り返るものである。大学の中庭をきれいにしたいという思いから2021年度に「中庭整備プロジェクト」が立ち上がり、「環境」の授業に関連づけながら中庭の整備が進められてきた。2023年度には畑が充実したことから、学生が収穫をしてその収穫物を食材として調理するという、「環境」の授業と「子どもの食と栄養」の授業に連携が生まれた。「環境」の内容から「食育」にまで繋がる授業を、食物を育てることを通して構築できたのである。

### 1.2 問題の所在、本考察の目的と方法

「中庭整備プロジェクト」が保育科「環境」の授業に取り入れられ、3年目に畑を充実させたことから作物が成長し収穫することができた。それを食材として、学生は生活科教員が担当する保育科2年の授業「子どもの食と栄養」で、調理をし食べる経験をした。また生活科の食品学を専門とする教員も加わり、授業の中に一部取り入れて、食材の由来やその野菜がもたらす具体的な栄養素などについても学習するという、一連の授業を構築することができた。

個別の授業からはなかなか生まれにくい教員との交流が、「中庭整備プロジェクト」（短期大学部の中庭を整備する活動）を通して生まれ、「環境」の授業で一から野菜を育てたことにより食育に結びつき、最終的には現代の「食」に関する問題についても学生に意識づけがなされたのである。

本考察は2023年度に試験的に行われたこの一連の授業について、一年目のプロセスを振り返り、それらの授業の実態と学生の反応—ワークシートの検証から、成果と課題を抽出することが本考察の目的である。そしてよりよい今後の授業の構築を目指すものである。

尚、「環境」の授業については蝦名が、「子どもの食と栄養」について岡本が、「食品学」の内容については木村が担当した。方法論として、実践した授業内容についてそれぞれ振り返りながら、学生に課したワークシートを検証する。

本稿は以下の4つの項目から構成される。1. 「中庭整備プロジェクト」と保育科「環境」の授業について、2. 「子どもの食と栄養」における調理実習、3. 「食品学」からの示唆、4. ワークシートの検証、である。5. 「おわりに」で、プロジェクト型の学びと、「環境」から「食育」へと繋がった本授業の成果と課題について共同で抽出する。

## 2. 「中庭整備プロジェクト」と保育科「環境」の授業

柴田学園大学短期大学部は青森県弘前市内にキャンパスがあり、「教育即生活」を理念に、生活科・保育科の2学科からなる。栄養士養成に関する専門科目が中心となっている生活科（50名）と、主として保育士を養成する保育科（60名）がある。2023年度は保育科1年60名、2年40名が在籍している。

「中庭整備プロジェクト」とは、授業名ではない。校舎から見える中庭をきれいに保とうと有志で整備

## 「中庭整備プロジェクト」から始まった学科間の連携

する活動で、「環境」の授業を担当する立場から、蝦名が学生に呼びかけた。その中庭は、冬場は積雪で閉ざされているのであるが、春になって授業が始まる4月には雪が溶けて、庭の土が姿を現す。毎年庭一面が雪に覆われても、手を入れた分、翌年の春には整備された痕跡が残って効果のあることがわかり、これまで継続されてきた。

以前から、有志の教員や事務職員の手によって中庭は整えられ守られてきた。しかし、退職されたり職務が変わったりすると、継続が難しくなる。春には草取りの際、その下からかつての花壇のレンガが出てきたりして、人の手が入っていた痕跡が地中から露わになってくる。

庭を維持することは授業だけではできず、「AC アワー」(本校の授業以外の自主的活動)<sup>1)</sup>を立ち上げた。2023年度は2年生5名、1年生3名が名乗りを上げてくれ、夏休みを通して水やりを中心に活動した。その活動を「環境」の授業(正式には「環境の指導法」と連携させてきた。スマホが手放せず、パソコン等の電子機器に触れることが多い昨今において、直接、自然の土や植物に触れる活動を筆者は非常に重要な機会として捉えている。

### 2.1 保育科「環境」の内容

『幼稚園教育要領』によると5領域の「環境」には、そのねらいに「(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ」とあり、「2内容」にも12項目中、5項目にわたって自然との触れ合いの大事さ―直接自然に触れる体験を通して、幼児が自然との関わりを深めることができるように工夫することが、求められている<sup>2)</sup>。

そこで将来、保育士等を目指す学生に対して、学生自身が虫などを怖がらずに実際に土に触れられるような体験が必要と考え、担当する「環境」の授業の中に土に親しむ活動を取り入れてきた。

### 2.2 「中庭整備プロジェクト」について―本学の環境とこれまでの経緯、実施内容

本校には外からは見えないが、約150坪の細長い形の中庭がある。まず、1年目に「土に親しむ」活動を授業の中に取り入れた。最初は草とりや名札の設置程度のことを考えていたが、実際に行ってみると学生の方から次々と要望があり、土を掘り起こし苗を植え、水やりをする過程までが継続して行われた。そうして少しずつ手を入れると中庭が整っていき、越冬しても翌年また見てみると、整備された花壇がほぼその原型を保っていることがわかった。

全体の授業時間数15回の内、約5回分を関連の内容に当てている。「環境」の授業では2021年度にスタートして2年目から畑を作ることになり、その畑が毎年少しずつ充実してきて、2023年度には「土づくり」に注目しながら、ミニトマト、枝豆、サツマイモなどが植えられた(図1~2)。図1は草取りをして整備した中庭の全貌で、畑の場所が上部に位置する。図2は土を耕してマルチを張り、苗を植えているところである。図2の右側には枝豆を、左側にはミニトマトを、一番奥の2つの畑にはサツマイモが植えられた。

2023年度を例にとり、約5回分の授業について言及すると、図3の緑色(3~6、15回目)の箇所が該当する。主な内容は、①草取りと名札付け、②「土」を耕し土づくり、③苗を植える(枝豆、ミニトマト)、④苗を植える(サツマイモ)⑤ミニトマトの収穫とスケッチ、である<sup>3)</sup>。尚、畑の苗の成長を見守るために、造形活動を取り入れ、グループごとにカラス除けの製作をして畑に設置した。



図1 2023年度の中庭の全貌（左）と 畑の部分の拡大図（右）



図2 土を耕し（左）、苗を植える（右）

|          |              | 主な実施内容                                                                                       |
|----------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 4/11  | 幼稚園教育要領      | 環境の教育法オリエンテーション：保育は環境を通して指導する。幼稚園教育要領の領域「環境」の位置づけ、領域「環境」1ねらい 2内容 これまでの実践について紹介               |
| 2. 4/18  | 行事<br>国旗(12) | 園行事と社会的行事。世界の国々と国旗の理解、一人一個とりあげ、国旗の意味を紹介する。違う国を取り上げる。30か国 内容 (12)                             |
| 3. 4/25  | Part1        | プロジェクト1：自然の触れ合いから環境を考える 畑、草取り。中庭名札づくり                                                        |
| 4. 5/2   |              | プロジェクト2：土づくり。                                                                                |
| 5. 5/9   |              | プロジェクト3：苗を植える。枝豆、ミニトマト。                                                                      |
| 6. 5/16  |              | プロジェクト4：苗を植える（サツマイモ）。                                                                        |
| 7. 5/23  | 文化、施設        | 今までのまとめ、模擬保育への応用（ワークシート）、身近な文化施設を知る。                                                         |
| 8. 5/30  |              | 弘前市立博物館訪問、建築物、施設を見学。                                                                         |
| 9. 6/6   | Part2        | Part2-1：自然と造形活動（カラス除けづくり）カラス除けづくり①                                                           |
| 10. 6/13 |              | Part2-2：自然と造形活動（カラス除けづくり）カラス除けづくり② 完成と設置                                                     |
| 11. 6/20 | 模擬保育         | カラス除けの設置③と模擬保育の班分け 6班                                                                        |
| 12. 6/27 |              | 指導案（指導計画書）の作成と模擬保育の準備：模擬保育で何をどのようにしたいか話し合う。実践の順番、指導案の作成（5～6人）班を6班に。                          |
| 13. 7/4  |              | 模擬保育の実践 2班ずつ（30分）10分振り返り。プロジェクトを保育の指導法にどのように役立てるかを考える 4班と1班 4班：葉っぱのお耳をしたウサギのロケット作り 1班：長さや量比べ |
| 14. 7/11 |              | 模擬保育の実践 2班と3班。2班：草取り、3班：ピング大会。雨天のため実践は不可。説明のみ。雨天の時の指導計画を作成。                                  |
| 15. 7/18 |              | 模擬保育の実践 5班と6班 総括：環境に関わる現代的問題 SDGs。5班：ミニトマトの観察とスケッチ 6班：読み聞かせとクイズ。ミニトマトの試食                     |

図3 「環境の指導法」実施内容

### 2.3 3年目の活動：畑の充実～収穫まで、調理へ

植物の成長は一年がかりである。枝豆、ミニトマト、サツマイモはよく育ち、ミニトマトは前期の終わりまでに収穫ができた。模擬保育にもスケッチなどが取り入れられ、みんなで試食をした。サツマイモは10月に入って150日目ごろに収穫をし、3日間ほど天日干しをして、新聞紙に一個ずつくるみ熟成させた。枝豆は収穫せずにそのまま乾燥させ、11月中旬に収穫し、2週間程さらに乾燥させた。その後、後期の「子どもの食と栄養」の授業に引き継がれ、調理の段階で、枝豆から大豆になることを学生は確認する。畑の実りや収穫物の様子である（図4～7）。



図4 サツマイモ畑



図5 ミニトマト



図6 サツマイモの収穫



図7 収穫したサツマイモ

### 2.4 成果と課題

「環境」の授業を活用し、学生全員に「中庭の整備」も兼ねて協力してもらった。実際に「土」に触れながら、自然の関わりについて予定の学習を進めることができた。今回は特に畑が充実して作物を収穫することができ、2年生40人分の調理に必要なサツマイモを収穫できた。成果は、春から秋の長期にかけて、実際に土に触れ植物の成長を間近に見ながら育てる体験をしたことである。課題としては、次の3点である。1) 次年度はさらに60人分の調理を賄える収穫量が必要となり、畑の拡張が必要となる。2) 今回は授業を通して、後期の「子どもの食と栄養」の授業に結びついたが、次回は収穫物を調理で使用することを予め念頭において、授業を再構築する。3) 「環境」の授業としては、植物だけではなく「土」を通して、虫などの生物についても事前の指導を充実させる必要がある。絵本の活用や「生物学」の教員との連携を図ることも視野に入れていきたい。

### 3. 生活科「子どもの食と栄養」における調理実習

「環境」と「中庭整備プロジェクト」で育てたサツマイモと枝豆が、「子どもの食と栄養」の授業に受け継がれ、食育の食材として取り入れられた。

### 3.1 授業の目的

始めに、この教科の趣旨である「食育」について、「食育とは何か」について改めて言及すると、『食育基本法』では食育とは、「様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」<sup>4)</sup>であると謳われている。この教科の概要は保育士、幼稚園教諭等を目指す学生が、栄養学、調理学など食の基本的な知識や子どもの身体的発育・発達、精神的特徴などを理解して、それらを踏まえて「食育」を実践できるように学ぶものである。

そこで、今回の「子どもの食と栄養」では、「環境」の授業で自分たちが育てたサツマイモと枝豆を調理して食すことで、「食の流れ」の一環した食育の授業を試みることにした。

### 3.2 授業計画

この取組みは収穫を祝う意味を込めて「収穫祭」と名付けられた。「収穫祭」は、収穫したサツマイモと大豆を調理して食べることを中心に、自分たちが調理する料理のレシピカードを作成し、試食後、レシピカードによる料理の紹介と、調理や試食の評価をした。班ごとにメニューの決定と調理は全員で行い、レシピと当日の工程表やレシピカードの作成や発表は、役割を分担して行った。本授業は前期15回、後期15回の授業で、講義と演習を行う。図8は後期の授業計画で、緑の部分(1、3～7回目的一部と8～10回目)が収穫祭の取り組みである。左側の教科書<sup>5)</sup>に添った内容で講義を進め、授業の後半に右側の作業を行った。

作業内容は図7のとおりである。11月28日収穫祭当日は、調理と全班的料理の試食を行い、互いに見た目や味の評価をした。12月15日はまとめとして、メニューとレシピカードの紹介、調理・試食の感想、その他気づいた点や子どもの食育にどのように活せるかなどを発表した。ここでさらに食品学の教師から食材について講義をして頂いた。

| 回  | 月日    | 内 容                 |                |
|----|-------|---------------------|----------------|
| 1  | 9/29  | 妊娠期と授乳期の食生活         | 収穫祭の説明         |
| 2  | 10/ 6 | 幼児期の発育・発達と食生活       |                |
| 3  | 10/13 | 幼児期の発育・発達と食生活       | さつまいも・枝豆料理を調べる |
| 4  | 10/20 | 学童期・思春期の発育・発達と食生活   | 班毎にメニューを相談     |
| 5  | 11/10 | 学童期・思春期の発育・発達と食生活   | メニュー決定とレシピ作成   |
| 6  | 11/17 | 生涯発達と食生活            | 工程表・レシピカード作成   |
| 7  | 11/24 | 食育の基本と内容            | 打合せ、その他の作業     |
| 8  | 11/28 | 【調理実習】収穫祭           |                |
| 9  | 11/28 | 【調理実習】収穫祭           | 発表担当まとめ        |
| 10 | 12/15 | 【発表】収穫祭まとめ 食品学の特別講義 |                |
| 11 | 12/22 | 食育の基本と内容(食育指導案づくり)  |                |
| 12 | 12/27 | 食育の基本と内容(食育指導案づくり)  |                |
| 13 | 1/12  | 家庭や児童福祉施設における食事と栄養  |                |
| 14 | 1/19  | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養   |                |
| 15 | 1/26  | アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養  | 21             |

図8 授業計画

#### 3.3.1 授業内容—収穫と大豆の工程

図9は、「中庭プロジェクト」で収穫されたサツマイモと枝豆である。写真のサツマイモは土から掘り出して常温で乾燥させ追熟したものである。そして枝豆は、今回の試みを計画する際に、「枝豆と大豆が同じ

## 「中庭整備プロジェクト」から始まった学科間の連携

野菜」ということを知らない学生が多いのではないかと予想して、枝豆が大豆になる過程を確認できるように、枝豆を収穫せず鞘が乾燥するまで植えたまま放置した。枝を振った時に「カラカラ」と音になると大豆の収穫ができることや、大豆は調理をしやすくするために水に戻すことが学習できる。



図9 収穫と大豆の工程

### 3.3.2 授業内容—調理実習

図10は調理実習の様子である。学生は自分たちが育てた食材を煮る、焼く、炒める、揚げるなど異なる調理法を用い、班ごとに様々な料理に挑戦した。レシピ通りに作っても味が納得できずに何度も味見をするなど、至る所にこだわりも見せていた。実習前には「これまで調理をほとんどしたことがない」という不安な声もあったが、調理リーダーのもと作業は順調に進み、全員楽しそうに作業をしていた。完成した8班の料理をとり分けて全員で試食し、班ごとに評価と感想をまとめてフィードバックした。



図10 調理実習

### 3.3.3 授業内容—完成した料理

図11は完成した料理である。サツマイモと大豆を使った料理がそれぞれセットで作られた。1班は「カ

リカリポテトと大豆の甘辛煮和え」、2班は「サツマイモチップスとミネストローネ」、3班は「大豆とツナのナゲットと、スイートポテト」、4班は「大豆入りドライカレーと大学芋」、5班は「スイートポテトと、大豆と野菜のスープ」、6班は「サツマイモ蒸しパンと、ひじきと大豆のきんぴら煮」、7班は「芋けんぴと大豆の炊き込みご飯」、8班は「スイートポテトと、大豆とタコとジャガイモのガーリックペッパーサラダ」である（図 11）。大豆料理はなかなか思いつかないものであるが、結構あるものだと学生たちも感心して



図 11 完成した料理

### 3.3.4 授業内容—レシピカード集

レシピカードにはメニューの分量と作り方、食育として一口メモを載せた。作成方法は Word、または手書きのいずれかで、ここには一例として手書きのものを挙げたが、Word で作成したものが多かった。メニューカードは後日、レシピカード集としてまとめた（図 12）。



図 12 レシピカード集

### 3.3.5 授業内容—発表と特別講義

調理実習後は収穫祭のまとめとして、各班のメニューをレシピカードで紹介し、試作と試食の感想、子どもの食育の観点からの気づきなどを発表する機会を設けた。その後で、「サツマイモと大豆の育成を知ろう」と題して、木村による食品学の見地からの特別講義を行った（次章で紹介）。

#### 3.4.1 学生の感想

「自分たちで育てたものを食べることについて」の感想には、「達成感を感じた」、「調理が一層楽しくなった」、「命の大切さ、食材に感謝の気持ちを持った」、「育てる野菜に興味を持ち、調理法などを調べることで食材への理解を深めることができた」などと言った言葉が多かった。また、「食育として」は、「五感を最大限に使って生かせる活動である」、「子ども達が楽しく学ぶことができて、苦手な野菜にも興味を持てるような関わり方をするに生かせる」、「自分の経験を子ども達にも味わってもらえるような働きをしたいと思った」という感想があった。

調理については、食材や調理法に興味を持ち理解を深めることができたという意見が大半を占め、食育については、子供たちにもこの体験を味わってもらえるような関わり方をしていきたい、と前向きな意見が多く得られた。

#### 3.4.2 成果と課題

調理中、学生が料理にこだわる姿を見て、自分たちが調理した料理に愛情をもって接していることが感じられた。また、学生の感想には、一から自分たちが育てた野菜を食材として調理できたことに、改めて感動している記述もあった。総じて今回の実習では、「いのちと食」、「料理と食」に対するさまざまな学生の心情、意欲、積極的な態度が見られた。これは支援する側になった時に、少なからず影響を及ぼすものと期待する。そして、これらの行動や感想は、異なる教科と連携したことにより、自分たちで育てた食材を調理して食すことで実現できた、まさに「食育」の実践であると考えられる。課題としては、食物にもっと関心を持ち理解できるように、植物の成長過程を観察する機会を増やすことと、さらに子どもの特徴を理解した献立と調理法が実践できる取組みをしたいと考えている。

## 4. 「食品学」からの示唆

「子どもの食と栄養」の授業の中で、与えられた時間は約20分ほどであったが、「食品学」からの示唆ということで、調理に今回使用されたサツマイモと大豆に絞り、次の4項目について言及した。1. 知識の定着を図るための授業への導入—サツマイモと大豆に関して、2. サツマイモの由来と食用部位、3. 大豆の特徴と加工品、4. 成果と課題、である。

### 4.1 知識の定着を図るための授業への導入

授業で学んだことを生かして幅広い知識と発想から多角的に食育指導ができることをねらった。食材として「サツマイモと大豆」に関する内容を主に、「植物のどの部分を食べているの?」と質問形式の媒体を使用し、そこから植物の起源と由来、特徴を理解しやすいようスライドを使い授業をした。

### 4.2 サツマイモの由来と食用部位 (図13)<sup>6)</sup>

図13は授業内容のスライドの一部である。サツマイモの起源と名前の由来、栄養価とでんぷんや多糖類

が貯蔵されて肥大した根を食用としていることを説明した。

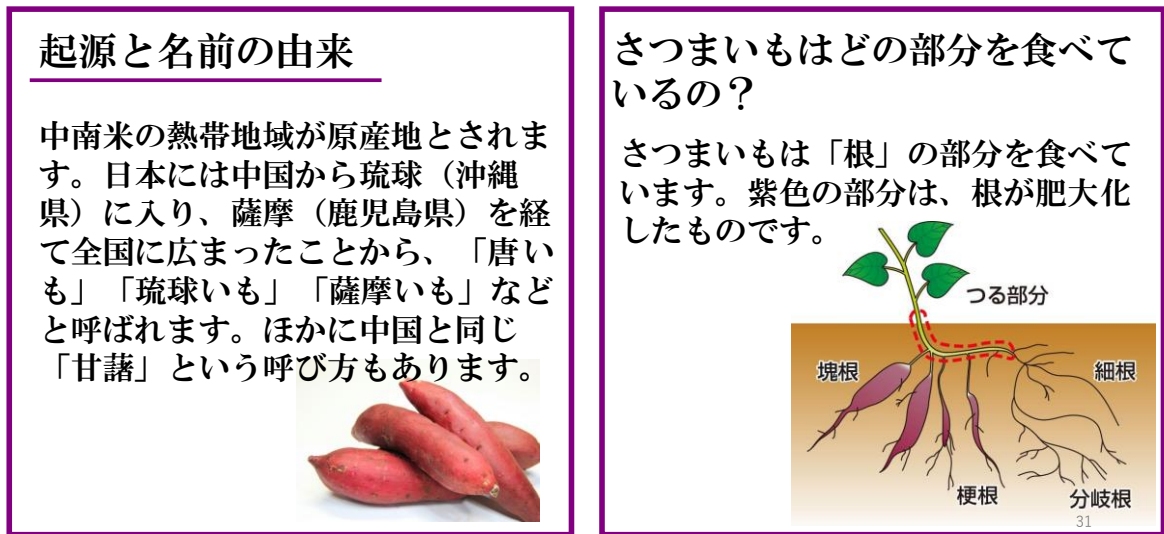


図 13 サツマイモの由来と食用部位

#### 4.3 大豆の特徴と加工品 (図 14) 7

大豆の起源と名前の由来、豊富に含まれるタンパク質とその他の栄養価について解説をした。また、大豆は枝豆を熟成させ乾燥させることによりできること、醤油や味噌、油揚げやきな粉等はどれも大豆加工品であることを説明した。

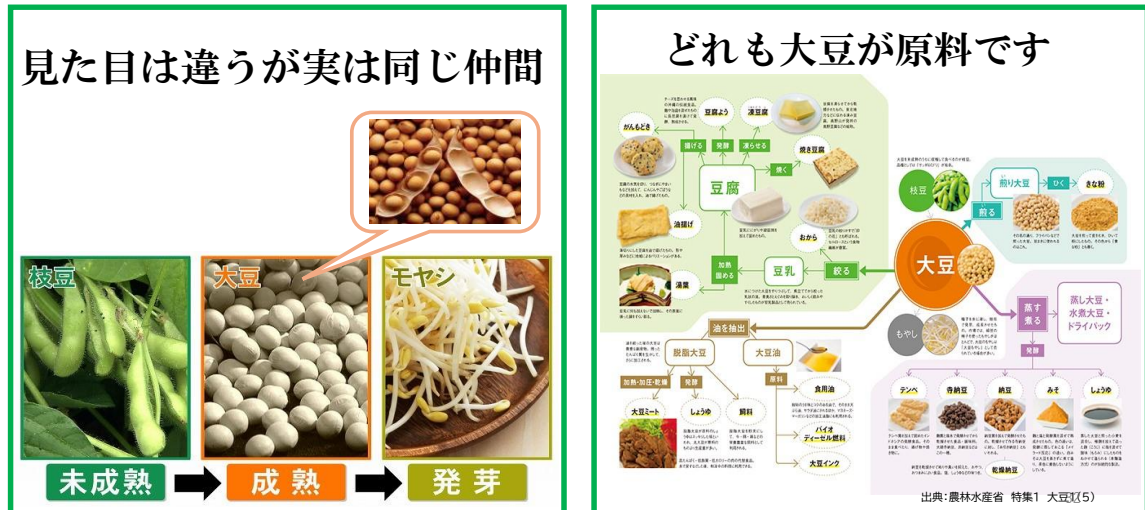


図 14 大豆の特徴と加工品

#### 4.4 成果と課題

短い時間であったが、本内容が各グループの発表後の最後に設けられたこともあって、これまでの活動の整理として学生は真剣に耳を傾けていた。また、学生はこの授業の前に既に「レシピカード」を作成して、サツマイモや大豆に関して自己学習を行っていたことから、食品学の内容が知識の再確認の場になったと思われる。成果として、学生からは非常に熱心で良い反応が伝わってきた。しかし今回、学生から直接、授業の感想を求める振り返りを行わなかったため、学生の理解度を個別に確かめることはできなかった。次回は、それがわかる振り返りができるような内容を検討していくことが課題となった。

## 5. 学生のワークシートの検証

最後に岡本の授業で行ったワークシートから、今回の授業の連携について学生の反応が分かる質問「①自分たちで育てたものを食べることについての感想」(自由記述)に焦点を当てたい。既にその感想が3.4.1で言及されているが、回収されたワークシート38人分からは否定的な意見の学生は一人もなく、全員から高評価が得られた。その学生の感想の中から今回、特に一連の授業内容に言及した感想があるので、それを一例として取り上げたい。少し長くなるが、そのまま記載することにする。

「自分たちで愛情をもってお世話したものを食べることで、販売されているものを購入して食べるよりも食事の楽しさや嬉しさが感じられると思った。また野菜などの成長の流れをより深く捉えることができた」という一文は、「育てることから食べることで、全ての工程を自らで行い、一つの活動を長い時間をかけて行った達成感も感じることもできた。野菜が育つためには手間ひまをかけて水やりや草取り、環境整備をするなど、どのような関わりが必要であるかも学んだ。調理の際には、自分たちで作った貴重な食材を残さずに大切に使用したい」という意識も芽生えていたと思う。収穫できる数が少ないという場合もあり、育てることの大変さを実感する良い機会だった。大豆については、枝豆が変化してあの姿になっていることを実際に見て学ぶことができた。別々の食べ物のように感じていたものが、関連性があることに気付くことにも繋がり、料理や食への興味が増した。」(M.I.) (環境、調理、食品学)

この学生の一文は、「環境」の授業内容、「調理」の実践、「食品学」の知識に関する内容が網羅されている。それぞれ関連する箇所該当する下線を施した。3つの観点からの言及が盛り込まれており、学習した内容の反応が総合的に捉えられていると思われる。「環境」からは、植物の生育に対して「愛情を持って世話した」こと、「野菜などの成長の流れをより深く捉えられるようになった」、「野菜が育つための労力と環境整備の大事さ」、「育てることの大変さ」が実感として述べられた。「調理」では、「購入して食べるよりも食事の楽しさや嬉しさを感じた」、「貴重な直材を残さずに大切に使用したい」という意識の芽生え、「食品学」の視点からは、「別々の食べ物に感じていたものに関連性があること」、「料理や食への興味が増した」など、授業内容が相互に関連し合った重要な指摘が見られる。さらにそれらを総合して、「育てることから食べることで、全ての工程を自ら行い、一つの活動を長い時間をかけて行った達成感を感じることもできた」という。今回意図した一連の授業は、まさにここに一つの目指すべき目標があったと言えよう。実際に学生の言葉で達成感があった、と表現されたことは、授業の効果として一定の成果が得られたのではないかと捉えている。またこのような授業を構築する意味が、改めてこの学生の言葉からも見出せたように思う。

現代は、食品がすぐに手に入る時代である。しかし自然の食物は育てるのに人手や時間がかかる。一つひとつ土を耕すところから成長するまでの植物の生育を体験すると、効率重視で分業化がなされている今日、また機械化が進み、AIやロボットが既に人間に代わって作業をするという、これまでにない急速な変化の時代にあつて、見過ごされがちな多くの自然の営みに改めて実感として気づかされる。限られた個々の授業だけでは得られない学習効果が、こうした一連の協働の授業では期待できるのである。

授業には本来その授業独自の目的がある。今回はその中に一部、教師がそれぞれの専門的内容を「中庭整備プロジェクト」に関連づけて授業をした。その結果、授業を受けている学生はその繋がりを咀嚼し、自ら、環境や食育・調理、食品としての知識を総合的に捉え直して理解をしてくれた。授業が相互に関連し合うことで一環した内容となり、学生には理解が深まったという指摘が多く見られたのである。学生が

自ら実践するという主体的な学びに誘った意味でも大いに効果があったのではないと思われる。

## 6. おわりに

今回の一連の内容に関して、担当した授業者の今後の課題についても、それぞれ具体的に抽出することができた。「環境」では、さらに畑の栽培の拡充を図る必要があり、虫などの生物についても事前指導を充実させる必要がある。「子どもの食と栄養」では、植物の成長の記録を段階的に行うことや、子どもの食事に照らして調理の献立を考えてみることで、「食品学」では、学生の学習の理解度を図る方法の検討などである。

本来は個別に実施される授業であるが、畑の収穫物を通して、教師も連携し合い授業の関連づけを意識的に図ると、学生にはそれぞれの授業で学んだ事柄が総合的に捉えられていた。しかも野菜が育つには天候にも左右され、長い時間がかかるという自然の摂理—食物の成長を実感し、その過程を全体的に捉えることができた。食物は短時間にできるのでなく、そこには人的労力と長い一定の時間を要する。そうした自然のリズムを理解し感得することも、土に触ることとともに、今のデジタル社会には重要な意味を持つのではないだろうか。また食材として調理されることで様々な料理が生まれ、我々は世界中の多彩な食文化の恩恵を受けている。長い歴史の中で様々な食べ物が加工され生み出されてきた。実際に調理して食べてみることで、自分で一からつくるという料理の味わい、楽しさを感じることができる。そして、自分たちの「土」から育てた食材を通して食べたものが自らの身体の一部となり、大自然との繋がりを改めて一層実感できるのである。

最後に、今回、一連の授業の効果が確認されたが、この連携は「中庭整備プロジェクト」という、本来の授業とは異なった枠組みの、環境を整備するという独自のプロジェクトから派生的に生まれたものである。改めてプロジェクト型の学びの効果について述べると、まず学科間の垣根を越えて、教員同士の連携が生まれたことが挙げられる。その成果は、本来個別の授業が、教師の専門性が関連づけられ連携することによって、学生にも新たな総合的で主体的な学びが生まれたことである。課題は、現場の視点を取り入れた幼児の学びに繋がる工夫や、保育士と栄養士の連携についても、今後より視野に入れることである。そのためには他の教員の専門性を必要に応じてさらに取り入れていきたい。引き続き、授業を改善し展開していく予定である。

<謝辞> 日頃ご協力いただいている本学職員の山内仁さんに、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

## 註

- 1) AC アワーは学生全員に呼びかけて自主的に集まった学生から成り、「中庭整備プロジェクト」の主要なメンバーとなる。
- 2) 文部科学省『幼稚園教育要領<平成 29 年告示>』フレーベル館、2017、p.18
- 3) 2023 年度の「環境」の授業については以下の拙論で詳述。蝦名「柴田学園大学短期大学部保育科における「環境」の授業と「中庭整備プロジェクト」—3 年目の展開と「食育」への波及効果—」『芸術文化』第 28 号、東北芸術文化学会、2024、pp.13-22
- 4) 厚生労働省『食育基本法』 <https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/kannrennhou.html> (2024.1.18 閲覧)
- 5) 太田百合子、堤ちはる『子どもの食と栄養 第2版』羊土社、2024
- 6) スライドを作成するにあたっては、以下を参照し、一部図版を転載した。農林水産省「サツマイモ『どこからきたの?』」 [https://www.maff.go.jp/j/agri\\_school/a\\_tanken/satu/01.html](https://www.maff.go.jp/j/agri_school/a_tanken/satu/01.html) (2023.12.13 閲覧)、タキイ種苗株式会社「野菜栽培マニユア

## 「中庭整備プロジェクト」から始まった学科間の連携

ル」<https://www.takii.co.jp/tsk/manual/sweetpotato.html> (2023.12.13 閲覧)

7) 左側大豆の写真は、以下の資料から転載。食生活研究所－食☆ラボ 「枝豆は成長すると大豆になるって本当？栄養はどうなる、モヤシは大豆や枝豆になるの？」<https://syoku-life-labo.com/edamame-seityou/> (2023.12.14 閲覧)。右側の図は次の資料から一部転載した。農林水産省『aff(あふ)16 年 6 月号 特集 1 大豆 変幻自在！大豆ファミリー』2016 [https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1606/spe1\\_05.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1606/spe1_05.html) (2023.12.14 閲覧)

付記：本稿は、令和 4～6 年度科研基盤研究 (C)「子供の空間把握に関する研究－環境と造形空間に焦点を当てて－」課題番号 22K02564 の研究成果の一部である。

(受付：2026 年 3 月 10 日)

自由投稿

## 次期学習指導要領を見据えた保健学習の内容構成

### — 論点整理を手がかりに —

上野秀人<sup>(1)(2)</sup>, 田中宏輝<sup>(3)</sup>

弘前大学教育学部保健体育講座<sup>(1)</sup>, 柴田学園大学 生活創生学部<sup>(2)</sup>, 藤崎町立藤崎中央小学校<sup>(3)</sup>

## Content Organization of Health Education in Anticipation of the Next Course of Study

### — An Analysis Based on the Published Summary of Issues —

Hideto Ueno<sup>(1)(2)</sup>, Koki Tanaka<sup>(3)</sup>

Department of Health and Physical Education, Faculty of Education, Hirosaki University<sup>(1)</sup>

Faculty of Human Life Design, Shibata Gakuen University<sup>(2)</sup>

Fujisaki-chuo Elementary School, Fujisaki<sup>(3)</sup>

Keyword : 学習指導要領 Course of Study

保健学習 Health Education

論点整理 Summary of Issues

### 要 旨

これまでの保健学習では、教科書内容を記憶する学習になりやすく、知識が断片的なものに留まり児童の実生活に結び付いていないことが課題となっている。本質的な改善を図るには、健康に関する知識を実生活と関連付けて理解し、自ら健康課題を解決しようとする態度を育てることが重要である。

本研究では、次期学習指導要領に向けた「論点整理」を手がかりに、保健学習の内容構成を整理した。具体的には、知識の「統合的な理解」と思考力・判断力・表現力等の「総合的な発揮」という高次の資質・能力を軸に、各領域におけるタテ・ヨコの関係を可視化した内容構成表を作成した。その結果、構造化や表形式化などの工夫が、「深い学び」を実現する授業づくりに役立つことが示唆された。

## I 緒言

### 1 保健学習における課題

小学校学習指導要領解説 体育編<sup>1</sup>によれば、「健康に関する課題を解決するなどの学習を取り入れ、知識を身に付ける指導に偏ることなく、資質・能力の三つの柱をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図ることが大切である（引用）。」としている。しかし、これまでの保健学習では、テスト等による記憶の再現を中心とした学習になりやすく、保健に関する知識が断片的な事実的知識として捉えられる傾向にあることが指摘されている<sup>2</sup>。

そのため、知識を理解することにとどまり、学習した内容が児童の実生活に結び付いていない可能性がある。健康に関する知識を実生活と関連付けて理解し、健康課題の解決に活用できるようにするためには、学習内容の関連や系統性を踏まえた保健学習の内容構成について検討することが求められる。

## 2 次期学習指導要領における保健学習の方向性

こうした状況の中、次期学習指導要領の改訂に向けた議論が進められており、中央教育審議会において教育内容の在り方に関する論点整理が示されている<sup>3・4</sup>。そこでは、高次の資質・能力の育成を重視し、知識及び技能の習得だけでなく、それらが相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿「知識及び技能に関する統合的な理解」や、複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を目指すことが示されている。このことは、保健学習においても、健康に関する知識を理解するだけでなく、健康課題の解決に向けて主体的に考え行動する力を育成する学習の充実が求められていることを示している。

論点整理では、これまでの学習指導要領の課題として、「資質・能力の深まりや一体的に育成するイメージが掴みにくく、『深い学び』を実現する授業づくりがしにくい」ことが挙げられている。そのため、日々の授業づくりの際に、教師一人ひとりが使いやすい学習指導要領とするため、「構造化・表形式化・デジタル化」の工夫を検討している（表1）。

|              | 目的・効果                                                            | 方向性                                                                    |
|--------------|------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| <b>構造化</b>   | 「深い学び」を実現する授業イメージを教師がもてるようにするため。資質・能力の「深まり」や「一体的な育成」のイメージを可視化できる | 「高次の資質・能力」を軸に内容を整理し、各要素の関連性を明確にする                                      |
| <b>表形式化</b>  | 教師が日々の授業づくりの際に使いやすいツールとするため。学年ごとの系統性や、知識・技能と思考力等のつながりが一目で把握できる   | 表形式や箇条書きを積極的に活用する<br>記載の冗長・複雑さの改善によるスリム化する<br>教科等や学年等を横断した俯瞰しやすさの向上を図る |
| <b>デジタル化</b> | デジタル技術で利便性を改善し、授業準備の負担軽減と質の向上を図るため                               | 必要な情報へのアクセスを容易にし、指導案作成やAIの活用を可能にする                                     |

表1 次期学習指導要領の構造に関する具体的な方向性<sup>3</sup>

そこで本研究では、「構造化・表形式化」の工夫に焦点を当て、保健領域における学習指導要領の内容構成の一例を示すことを目的とする。

## II 研究の構想

### 1 主題の意味

#### 保健学習の内容構成とは

次期学習指導要領に向けた論点整理を手がかりとして、保健学習に求められる内容の在り方を整理し、次期学習指導要領を見据えた保健学習の内容構成の一例を示すこと

### 2 研究の目標

論点整理を手がかりにして、次期学習指導要領を見据えた保健学習の内容構成を明らかにする

### 3 研究構想・方法

研究の方法は、論点整理を手がかりに保健学習の内容構成を可視化し、授業化への価値性から検討する。

#### (1) 論点整理とそのポイント整理における「タテ・ヨコの関係」の可視化・深い学びの具現化

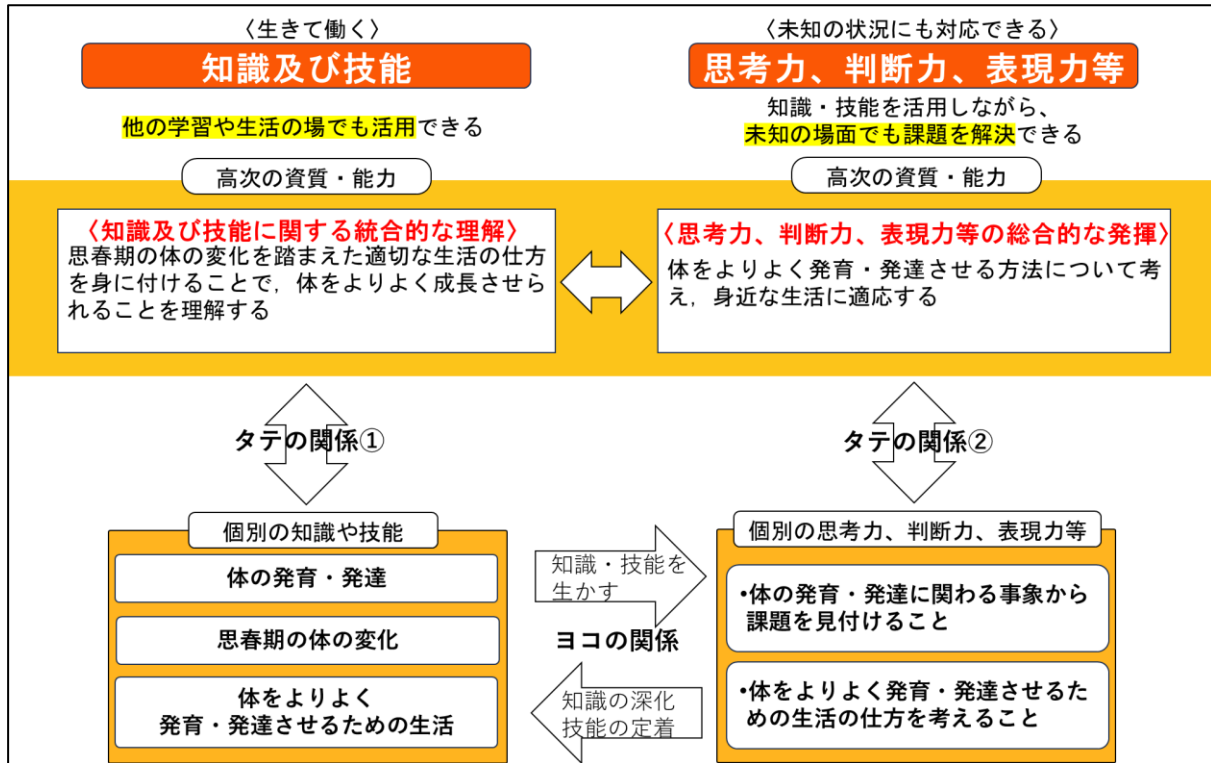


図1 「体の発育・発達」を例にしたタテ・ヨコの関係の可視化<sup>3・4</sup>（論点整理をもとに作図）

論点整理等<sup>3・4</sup>によれば、「個別の知識や技能が生きて働くように深く学ぶこと『タテの関係①』が重要である。同じように、思考力・判断力・表現力等も社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めること『タテの関係②』が重要になる。また、ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しい。反対に、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しいことから『ヨコの関係』も重要になる。（一部要約）」と記載されている。図1は、論点整理にある図を参考に、体育科保健領域の「体の発育・発達」を例に筆者が作成したものである。

#### (2) 保健が目指す高次の資質・能力

表2は、図1内にもある「知識及び技能を他の学習や生活場面で活用している姿」と「思考力・判断力・表現力等を未知の場面でも課題を解決している姿」が体育科保健領域においてどのような姿になるのかを具体的に予想したものである。

| 単元の例  | 具体的な活用・解決の姿                                                        |                                                                                      |
|-------|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 〈知識及び技能〉<br>他の学習や生活場面で活用している姿                                      | 〈思考力・判断力・表現力等〉<br>未知の場面でも課題を解決している姿                                                  |
| 健康な生活 | 運動、食事、休養及び睡眠の調和の大切さを理解し、自分の1日の生活の仕方を振り返り、適切な生活行動を自ら選択・継続している       | 健康に関わる原則や概念を、身近な生活環境から「社会的な環境」まで広く捉え、社会全体の健康課題に対しても、根拠に基づき合理的に判断し行動する                |
| 心の健康  | 不安や悩みへの対処法を学び、実生活でストレスを感じた際に、自分に合った相談相手を選んだり、心身の負担を軽くする方法を試したりしている | 未知の困難に直面した際、自分の体の異変を捉え、自分に最も適した相談相手を選んだり、新たに心身の負担を軽くする方法を取り入れたりして、自らの生活を主体的に調整しようとする |

表2 保健学習における「活用」と「未知の課題解決」の様子<sup>3・4</sup>

### Ⅲ 次期学習指導要領を見据えた保健学習の内容構成

論点整理<sup>3</sup>や論点整理のポイント資料<sup>4</sup>、教科等WGにおける資質・能力の構造化等に関する資料で検討されている事項<sup>5</sup>を手がかりにして、次期学習指導要領における保健学習の内容構成を整理した。整理するに当たって、現行の学習指導要領解説体育編<sup>6・7</sup>を基盤とした。

#### 1 健康な生活（3年生）

| 素案     | 知識及び技能に関する統合的な理解                                                                                                                                            |                                             |                           | 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮                                                                                                                                                            |                                                                        |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
|        | 健康の状態には、生活の仕方や生活空間の環境が関わっており、毎日を健康に過ごすためには、生活の仕方や生活環境を整えることが必要であることを理解する                                                                                    |                                             |                           | 健康な生活の仕方を考え、身近な生活に適用する                                                                                                                                                         |                                                                        |
| 現行     | 心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること、毎日を健康に過ごすには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること、毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることなどが必要であることを理解する |                                             |                           | 健康な生活について課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現することができる                                                                                                                                       |                                                                        |
| 小学3年相当 | 知識                                                                                                                                                          |                                             |                           | 思考力・判断力                                                                                                                                                                        | 表現力                                                                    |
|        | 健康な生活<br>・主体の要因<br>・周囲の環境の要因                                                                                                                                | 1日の生活の仕方<br>・運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活<br>・体の清潔 | 身の回りの環境<br>・明るさの調節<br>・換気 | 1日の生活の仕方などの主体の要因や身の回りの環境の要因から健康に関わる課題を見付ける<br><br>運動、食事、休養及び睡眠、体の清潔、明るさの調節や換気などの学習したことと、自分の生活とを比べたり関連付けたりして、1日の生活の仕方や生活環境を整えるための方法を考える                                         | 健康な生活について、健康に過ごすために考えた方法を学習カードなどに書いたり、発表したりして伝える                       |
| 中学1年相当 | 健康の成り立ちと疾病の発生要因<br>・健康の成り立ち<br>・主体と環境の要因の関わりによって起こる疾病                                                                                                       | 生活習慣と健康<br>・運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の継続        |                           | 健康の成り立ちと疾病の発生要因や、生活習慣と健康について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、健康の保持増進する方法を見いだす<br><br>生活習慣病及びがんの予防や、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、習得した知識を自他の生活と比較したり、活用したりして、疾病等にかかるリスクを軽減し健康の保持増進する方法を選択する | 健康な生活と疾病の予防について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝える |

次期学習指導要領を見据えた保健学習の内容構成

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                           |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学3年<br>相当     | 【健康と<br>環境】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  | 身体 <span>の</span> 環境 <span>に</span> 対<br>する <span>適</span> 応 <span>能</span> 力 <span>・</span> 至<br>適 <span>範</span> 囲 | 健康と環境に関わる原則や概<br>念を基に、収集した情報を整<br>理したり、習得した知識を個<br>人生活と関連付けたりして、<br>自他の課題を発見する                                                                                                                                                                                                      | 健康と環境について、<br>課題の解決方法とそ<br>れを選択した理由な<br>どを、他者と話し合っ<br>たり、ノートなどに記<br>述したりして、筋道を<br>立てて伝え合う |
|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  | 飲料水や空気 <span>の</span><br>衛 <span>生</span> 的 <span>管</span> 理                                                         | 身体 <span>の</span> 環境 <span>に</span> 対する <span>適</span> 応 <span>能</span><br>力 <span>・</span> 至 <span>適</span> 範 <span>囲</span> について、習得し<br>た知識を自他 <span>の</span> 生活に適用し<br>たり、課題解決に役立 <span>て</span> たり<br>して、熱中症などになるリス<br>クを軽減し、健康を保持増進<br>する方 <span>法</span> を見い <span>だ</span> す |                                                                                           |
|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  | 生活に伴う廃棄物 <span>の</span><br>衛 <span>生</span> 的 <span>管</span> 理                                                       | 飲料水や空気 <span>の</span> 衛 <span>生</span> 的 <span>管</span> 理や<br>廃棄物 <span>の</span> 衛 <span>生</span> 的 <span>管</span> 理につい<br>て、習得した知識と自他を取<br>り巻く環境とを関連付けたり<br>、整理したりして、疾病等に<br>かかるリスクを軽減し健康を<br>保持増進する方 <span>法</span> を選択する                                                         |                                                                                           |
|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                           |
| 内 容 の<br>取 扱 い | <div>(小) 学校でも、健康診断や学校給食など様々な活動が行われていることについて触れるものとする</div> <div>(中) 健康の保持増進と疾病の予防に加えて、疾病の回復についても取り扱うものとする</div> <div>(中) 「健康の成り立ちと疾病の発生要因」「生活習慣と健康」については、食育の観点も踏まえつつ健康的な生活習慣の形成に結び付くように配慮するとともに、必要に応じて、コンピュータなどの情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことも配慮するものとする</div> <div>(中) 「健康と環境」については、地域の実態に即して公害と健康との関係を取り扱うことにも配慮するものとする。<br/>また、生態系については、取り扱わないものとする</div> |  |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                           |

## 2 体の発育・発達（4年生）

|                | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                         |                                           |                                                 | 総合的な発揮                                                                     |                                                                            |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 素案             | 思春期の体の変化を踏まえた適切な生活の仕方を身に付けることで、体をよりよく成長させられることを理解する                                                                                                                                                            |                                           |                                                 | 体をよりよく発育・発達させる方法について考え、身近な生活に適応する                                          |                                                                            |
| 現行             | 体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育・発達には、個人差があること、体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること、体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることを理解する                                                         |                                           |                                                 | 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現することができる                           |                                                                            |
| 小学4年<br>相当     | 知識                                                                                                                                                                                                             |                                           |                                                 | 思考力・判断力                                                                    | 表現力                                                                        |
|                | 体の発育・発達<br>・年齢に伴う変化<br>・体の変化の個人差                                                                                                                                                                               | 思春期の体の変化<br>・男女の特徴<br>・初経・精通など<br>・異性への関心 | 体をよりよく発育・発達させるための生活<br>・発育・発達させる適切な運動、食事、休養及び睡眠 | 身長や体重などの年齢に伴う体の変化や体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付ける                                | 体の発育・発達について、自己の発育・発達や体をよりよく発育・発達させるために考えたことを学習カードなどに書いたり、発表したりして伝え合う       |
|                |                                                                                                                                                                                                                |                                           |                                                 | 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考える                                   |                                                                            |
|                |                                                                                                                                                                                                                |                                           |                                                 | 体をよりよく発育・発達させるための生活について、学習したことを自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして適切な解決方法を考える          |                                                                            |
| 中学1年<br>相当     | (ア) 身体機能の発達                                                                                                                                                                                                    | (イ) 生殖に関わる機能の成熟                           |                                                 | ・心身の機能の発達と心の健康における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見する | ・心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合う |
|                |                                                                                                                                                                                                                |                                           |                                                 | ・心身の機能の発達について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、発達の状況に応じた健康を保持増進する方法を見いだす    |                                                                            |
| 内 容 の<br>取 扱 い | ・自分と他の人では発育・発達などに違いがあることに気付き、それらを肯定的に受け止めることが大切であることについて触れるものとする                                                                                                                                               |                                           |                                                 |                                                                            |                                                                            |
|                | ・「身体機能の発達」については、呼吸器、循環器を中心に扱うものとする<br>・「生殖に関わる機能の成熟」については、妊娠や出産が可能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする。また、身体機能の成熟とともに、性衝動が生じたり、異性への関心が高まったりすることなどから、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする |                                           |                                                 |                                                                            |                                                                            |

### 3 心の健康（5年生）

| 素案                                | 統合的な理解                                                                                               |                                             |                                            | 総合的な発揮                                                                                                             |                                                                           |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
|                                   | 心は発達すること、心と体は密接な関係があること等の特徴を踏まえ、不安や悩みに対処することで、心の健康を保つことができることを理解する                                   |                                             |                                            | 心をよりよく発達させたり、不安や悩みに対処する方法を考え、身近な生活に適用する                                                                            |                                                                           |
| 現行                                | 心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達すること、心と体には、密接な関係があること、不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があることを理解する |                                             |                                            | 心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができる                                                                 |                                                                           |
| 小学5年<br>相当                        | 知識                                                                                                   |                                             |                                            | 思考力・判断力                                                                                                            | 表現力                                                                       |
|                                   | 心の発達<br>・年齢に伴う発達                                                                                     | 心と体との密接な<br>関係<br>・心と体は深く影<br>響し合っている<br>こと | 不安や悩みへの対<br>処<br>・自己に合った方<br>法による適切<br>な対処 | 心の発達に関する事柄や、不安や悩みの経験から、心の健康に関わる課題を見付ける                                                                             | 心の健康について、考えたり選んだりした方法がなぜ適切なのか、理由をあげて学習カードなどに書いたり、友達に説明したりする               |
|                                   |                                                                                                      |                                             |                                            | 心の発達や心と体の関わりについて、自己の経験と学習したことを関連付けて、よりよく心を発達させる適切な方法や心と体の関わりについて考える<br><br>不安や悩みに対処する様々な方法を考え、学習したことを活用して、適切な方法を選ぶ |                                                                           |
| 中学1年<br>相当<br><br>【心身の機能の発達と心の健康】 | 精神機能の発達と自己形成                                                                                         |                                             | 欲求やストレスへの対処と心の健康                           | 欲求やストレスとその対処について、習得した知識や技能を自他の生活と比較したり、活用したりして、心身の健康を保持増進する方法やストレスへの適切な対処の方法を選択する                                  | 心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合う |
| 内 容 の<br>取 扱 い                    | (中)「欲求やストレスへの対処と心の健康」については、体育分野の内容の「A体づくり運動」の知識及び運動のアの指導との関連を図って指導するものとする                            |                                             |                                            |                                                                                                                    |                                                                           |

## 4 けがの防止（5年生）

|                           | 統合的な理解                                                                                                            |                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                         |                                                                               |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 素案                        | けがは、人の行動や生活環境が関わって発生していることを踏まえ、要因に対応した防止方法について身に付けることで、けがの防止につながることを理解する                                          |                                                                      | 危険の予測や回避の方法を考え、身近な生活に適用する                                                                                                                                      |                                                                               |
| 現行                        | 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること、けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があることを理解する |                                                                      | けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現することができる                                                                                                                       |                                                                               |
| 小学5年<br>相当                | 知識                                                                                                                |                                                                      | 思考力・判断力                                                                                                                                                        | 表現力                                                                           |
|                           | 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止<br>・けがの発生<br>・人の行動と環境が関わる<br>こと<br>・周囲の危険に気付いて、的確な判断の下に行動すること、環境を整える             | けがの手当<br>・状況の速やかな把握と処置、近くの人に知らせる<br>・傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの方法 | 人の行動や環境、けがの手当の仕方などから、けがや症状の悪化の防止に関わる課題を見付ける<br>自分のけがに関わる経験を振り返ったり、学習したことを活用したりして、危険の予測や回避の方法、けがなどの適切な手当の方法を考えたり、選んだりする                                         | けがの防止について、けがや症状の悪化の防止のために考えたり、選んだりした方法がなぜ適切であるか、理由をあげて学習カードなどに書いたり、友達に説明したりする |
| 中学2年<br>相当<br><br>【傷害の防止】 | 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因<br><br>・交通事故などによる傷害の防止<br><br>・自然災害による傷害の防止                                                 | 応急手当の意義と実際                                                           | 傷害の防止における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見する<br><br>交通事故、自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択する | 傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合う     |
|                           |                                                                                                                   |                                                                      | 傷害に応じた適切な応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態に合わせて活用して、傷害の悪化を防止する方法を見いだす                                                                                                   |                                                                               |
| 内容の<br>取扱い                | (小) けがからの回復についても触れるものとする                                                                                          |                                                                      |                                                                                                                                                                |                                                                               |
|                           | (中) 「応急手当の意義と実際」については、包帯法、止血法など傷害時の応急手当も取り扱い、実習を行うものとする。また、効果的な指導を行うため、水泳など体育分野の内容との関連を図るものとする                    |                                                                      |                                                                                                                                                                |                                                                               |

## 5 病気の予防（6年生）

|            | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                     |                     |                      |               |               | 総合的な発揮                                                                                |                                                                                   |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|----------------------|---------------|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
|            |                                                                                                                                                                                                                                                            |                     |                      |               |               |                                                                                       |                                                                                   |
| 素案         | 身近な病気の要因を踏まえた予防方法をとることで、その予防につながることを理解する                                                                                                                                                                                                                   |                     |                      |               |               | 病気の原因や予防の原則から、病気の予防方法を考え、身近な生活に適用する                                                   |                                                                                   |
| 現行         | <p>病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わりあって起こること、病原体が主要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高める必要があること、生活習慣病など生活行動が主要因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること、地域では、保健に関わる様々な活動が行われていることを理解する</p> |                     |                      |               |               | <p>病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができる</p>                           |                                                                                   |
| 小学6年<br>相当 | 病気の起こり方                                                                                                                                                                                                                                                    | 知識                  |                      |               |               | 思考力・判断力                                                                               | 表現力                                                                               |
|            |                                                                                                                                                                                                                                                            | 病原体が主要因となって起こる病気の予防 | 生活行動が主要因となって起こる病気の予防 | 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 | 地域の様々な保健活動の取組 | <p>病気の予防について、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などの要因から課題を見付ける</p>                                      | <p>病気の予防について、病気の予防や回復のために考えたり、選んだりした方法がなぜ適切であるか、理由をあげて学習カードなどに書いたり、友達に説明したりする</p> |
|            |                                                                                                                                                                                                                                                            |                     |                      |               |               | <p>病気の予防や回復に関する課題について、学習したことを活用して解決の方法を考えたり、選んだりする</p>                                |                                                                                   |
|            |                                                                                                                                                                                                                                                            |                     |                      |               |               | <p>いくつかの病気の要因や起こり方を比べて、それぞれの病気に応じた予防の方法を選ぶ</p>                                        |                                                                                   |
| 中学1年<br>相当 | 健康の成り立ちと疾病の発生要因<br><br>【健康な生活と疾病の予防】                                                                                                                                                                                                                       |                     |                      |               |               | <p>喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、それらの害や体への影響を考えたり、地域の様々な保健活動の取組の中から人々の病気を予防するための取組を選んだりする</p>     |                                                                                   |
|            |                                                                                                                                                                                                                                                            | ※1 にも記載             |                      |               |               | <p>健康の成り立ちと疾病の発生要因や、生活習慣と健康について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、健康の保持増進をする方法を見いだす</p> | <p>健康な生活と疾病の予防について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合う</p>    |

|                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |               |                                                                                                         |                      |                   |                                                                                                                                                                                  |  |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>中学2年<br/>相当</p> <p>【健康な生活と疾病の予防】</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |               | <p>生活習慣病の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の乱れと生活習慣病などのつながり</li> <li>・がんの予防</li> </ul> | <p>喫煙、飲酒、薬物乱用と健康</p> |                   | <p>健康な生活と疾病の予防における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見する</p> <p>生活習慣病及びがんの予防や、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、習得した知識を自他の生活と比較したり、活用したりして、疾病等にかかるリスクを軽減し健康の保持増進をする方法を選択する</p> |  |
| <p>中学3年<br/>相当</p> <p>【健康な生活と疾病の予防】</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>感染症の予防</p> |                                                                                                         |                      | <p>健康を守る社会の取組</p> | <p>感染症の予防や健康を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、疾病等にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を選択する</p>                                                                                           |  |
| <p>内 容 の<br/>取 扱 い</p>                  | <p>(小) 病気からの回復についても触れるものとする</p> <p>(小) 薬物については、有機溶剤の心身への影響を中心に扱うものとする。また、覚醒剤等についても触れるものとする</p> <p>(中) 「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」については、心身への急性影響及び依存性について扱うこと。また、薬物は、覚醒剤や大麻等を取り扱うものとする</p> <p>(中) 「感染症の予防」については、後天性免疫不全症候群（エイズ）及び性感染症についても扱うものとする</p> <p>(中) 「健康の成り立ちと疾病の発生要因」「生活習慣と健康」「生活習慣病などの予防」については、食育の観点も踏まえつつ健康的な生活習慣の形成に結び付くように配慮するとともに、必要に応じて、コンピュータなどの情報機器の使用と健康との関わりについて扱うことも配慮するものとする。また、がんについても扱うものとする</p> |               |                                                                                                         |                      |                   |                                                                                                                                                                                  |  |

#### Ⅳ まとめ

本研究の目標は、論点整理を手がかりにして、次期学習指導要領を見据えた保健学習の内容構成を明らかにすることである。以下、明らかになった点を記す。

##### 1 タテ・ヨコの関係による構造の可視化

論点整理の構造化を基に、現行の学習指導要領を整理した。これにより、タテの関係として「資質・能力の深まり」やヨコの関係として「一体的な育成」のイメージが可視化できた。教師は、学年間という時間軸の関係性と資質・能力という内容軸の関係性を認識しやすくなり、単元設計に活かすことができる。

##### 2 思考・判断・表現の具体性と系統性に関する課題

内容構成を整理した結果、知識の内容に比べて、思考・判断・表現の内容の具体性及び系統性が見えにくいという課題が浮き彫りになった。論点整理では、個別の思考力を組み合わせて総合的に働かせる「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を目指している。その意味からも、これを具体的な保健学習においてどのように段階化・高度化させるかについて、さらなる精査が必要である。

##### 3 中学校との接続による知識の系統性の明確化

知識の系統性については、中学校の内容までを見通して整理することで、小学校からのつながりがより明確になった。

##### 4 教師にとっての「使いやすさ」と授業改善への期待

「表形式化」の工夫により、教師が日々の授業づくりで使用しやすいツールとしての可能性が確認できた。また、「深い学び」を実現する授業イメージが持ちやすくなり、授業改善に関わる学習指導要領の活用が期待できる。

#### 引用・参考文献

- 1 文部科学省(2017)【体育編】小学校学習指導要領解説 p. 20
- 2 今村修・植田誠治・岡崎勝博・野津有司・野村良和・森良一 編著(2020)『保健科教育学の探究—研究の基礎と方法—』大修館書店 pp. 176-178
- 3 文部科学省「教育課程企画特別部会 論点整理」文部科学省  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/mext\\_00010.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/mext_00010.html)  
(2026年3月16日閲覧)
- 4 文部科学省「教育課程企画特別部会 論点整理のポイント」文部科学省  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/mext\\_00010.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/mext_00010.html)  
(2026年3月16日閲覧)
- 5 文部科学省「【資料2-1】各教科等WGにおける資質・能力の構造化等に関する検討状況 (3/4)」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/101/siryo/mext\\_00044.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/101/siryo/mext_00044.html)  
(2026年3月16日閲覧)
- 6 文部科学省(2017)【体育編】小学校学習指導要領解説
- 7 文部科学省(2017)【保健体育編】中学校学習指導要領解説

(受付：2026年3月23日)

自由投稿

## 「けがの防止」に関わる教科等横断的な保健学習

— 養護教諭との連携を通して —

上野 秀人<sup>(1)(2)</sup>, 田中 宏輝<sup>(3)</sup>

弘前大学教育学部保健体育講座<sup>(1)</sup>, 柴田学園大学 生活創生学部<sup>(2)</sup>, 藤崎町立藤崎中央小学校<sup>(3)</sup>

## Cross-Curricular Health Education in Injury Prevention

— Through Collaboration with *Yogo* Teachers —

Hideto Ueno<sup>(1)(2)</sup>, Koki Tanaka<sup>(3)</sup>

Department of Health and Physical Education, Faculty of Education, Hirosaki University<sup>(1)</sup>

Faculty of Human Life Design, Shibata Gakuen University<sup>(2)</sup>

Fujisaki-chuo Elementary School, Fujisaki<sup>(3)</sup>

Key word : 教科横断      Cross-Curricular  
養護教諭      *Yogo* Teacher  
安全教育      Safety Education

### 要 旨

本研究は、小学校第5学年を対象に、体育科保健領域の「けがの防止」を要とした教科等横断的な学習の在り方を究明するものである。学習指導要領の趣旨及び全国や青森県の交通事故の実態を踏まえ、保健学習と道徳・学級活動・学校行事を関連付け、「自分事」として捉え直す単元を構成した。具体的には、養護教諭との直接的・間接的な連携を図るとともに、理論と実践を往還させる「Uターン構造」に基づき、知識の習得から全校遠足等での実践、振り返りを通じた深化を目指した。その結果、他教科の学びが保健学習と関連付けられ、児童が生活場面を意識した具体的な安全行動を思考する可能性が示唆された。

### I 緒言

#### 1 全国及び青森県の実態

「令和6年度交通事故の状況及び交通安全施策の現況<sup>1)</sup>」によれば、平成27年から令和6年の10年間で全国の児童の死傷者数は大幅に減少しているが、依然として歩行中の事故が全体の55.6%を占めている。また、次いで多い自転車乗用中の事故は、高学年になるにつれて増加する傾向にあり、小学校5年生が全体の51.9%に当たる。歩行中の交通事故の状況は、登下校中の時間帯が多く、全体の約4割を占めており、全国・青森県<sup>2)</sup>共に「飛び出し」が最も多い。このことから、小学校教育活動全体での安全指導はもとより、体育科保健領域における「けがの防止」の学習が重要であると言える。

## 2 学習指導要領 及び 文部科学省参考資料

小学校学習指導要領解説 体育編<sup>3</sup>では、「身近な生活における健康の理解とは、基礎的・基本的な内容を実践的に理解することであり、これらの理解は、単に知識を記憶としてとどめるだけではなく、児童が、身近な生活における学習課題を見付け、それを解決する過程を通して、健康に関する課題解決に役立つ保健領域の主要な概念を習得することを目指したもの。（一部要約）」と記載されている。

また、改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引<sup>4</sup>では、「保健教育に取り組む際、子供の健康への関心を高めたり、健康に対する知識を習得したり、思考力・判断力・表現力等を育成したりするためにも、体育科運動領域や各教科等との相互に関連を図った指導が重要。（一部要約）」と書かれている（表1）。

運動領域や各教科等との関連をどのように図るかを吟味する際には、子供がさらに意欲的に学習活動を進め、それぞれの教科等の内容をより効果的に身に付けられるよう、教師自身が教科等横断的に指導する意図を持ち、どのように学習を展開していくのかを考え、計画的、効果的に指導することが重要である

（例）特別活動の実践化に向けて、より積極的な行動につなげるための根拠となる知識を体育科保健領域の学習で得たり、既習した内容を活用したりする

表1 教科等横断的視点に立った各教科等の関連を図った指導について（文部科学省資料<sup>4</sup>）

これらのことから、教科等横断的な指導は、単に知識をつなぎ合わせることに留まらず、「安全」という多面的なテーマを、児童が自分自身の生活と切り離せない「自分事」として捉え直すプロセスそのものに価値があると言える。

## II 研究の構想

### 1 主題の意味

**教科等横断的な保健学習** とは

健康に関する内容を他教科等の学習内容と関連付けて捉え直し、諸教科で得た知識や見方・考え方を統合することで、健康課題を多面的に理解し、生活に活用可能な高次の知識へと高める学習である

### 2 研究の目標・目的

養護教諭との連携と学習活動の工夫を通して、「けがの防止」に関わる教科横断的な保健学習の在り方を究明する

### 3 単元構成の考え方

小学校学習指導要領解説（総則編）<sup>5</sup>に記載されている教科等横断的な指導について表2にまとめた。

|           |        |                                                                                   |
|-----------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 教科等横断的な指導 | 合科的な指導 | 教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つ。単元又は1コマの時間の中で、 <u>複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開</u> するもの |
|           | 関連的な指導 | 教科等別に指導するに当たって、 <u>各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導</u> するもの        |

表2 教科等横断的な指導を推進していくための具体的な工夫

井上<sup>6</sup>・二橋<sup>7</sup> (2010・2024 より引用) によれば、合科的指導とは「教科ごとに分科して指導する中で、ある教科を中心に、他教科の関連的内容を取り込んで指導したり、複数の教科の関連的内容を構成して指導したりすること」である。本研究では、井上 (2010) が示した合科的指導の類型 (二橋 2024 より引用) を参考にして、保健学習を要とした教科等横断的な健康単元を構想した。単元を構成するに当たって、体育 (保健)、道徳、特別活動 (学級活動、行事) の内容を意図的に組み合わせたり関連させたりした。具体的には、保健「けがの防止」における課題を解決するために、道徳は保健の学習を「深める」機能、特別活動は「生かす」機能として配置している (図1)。

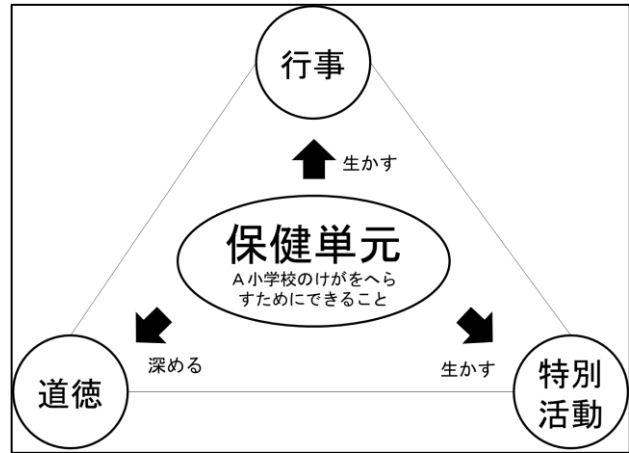


図1 本研究における合科的な指導  
(井上氏の「生活課題型合科的指導」から作図)

#### 4 研究構想・方法

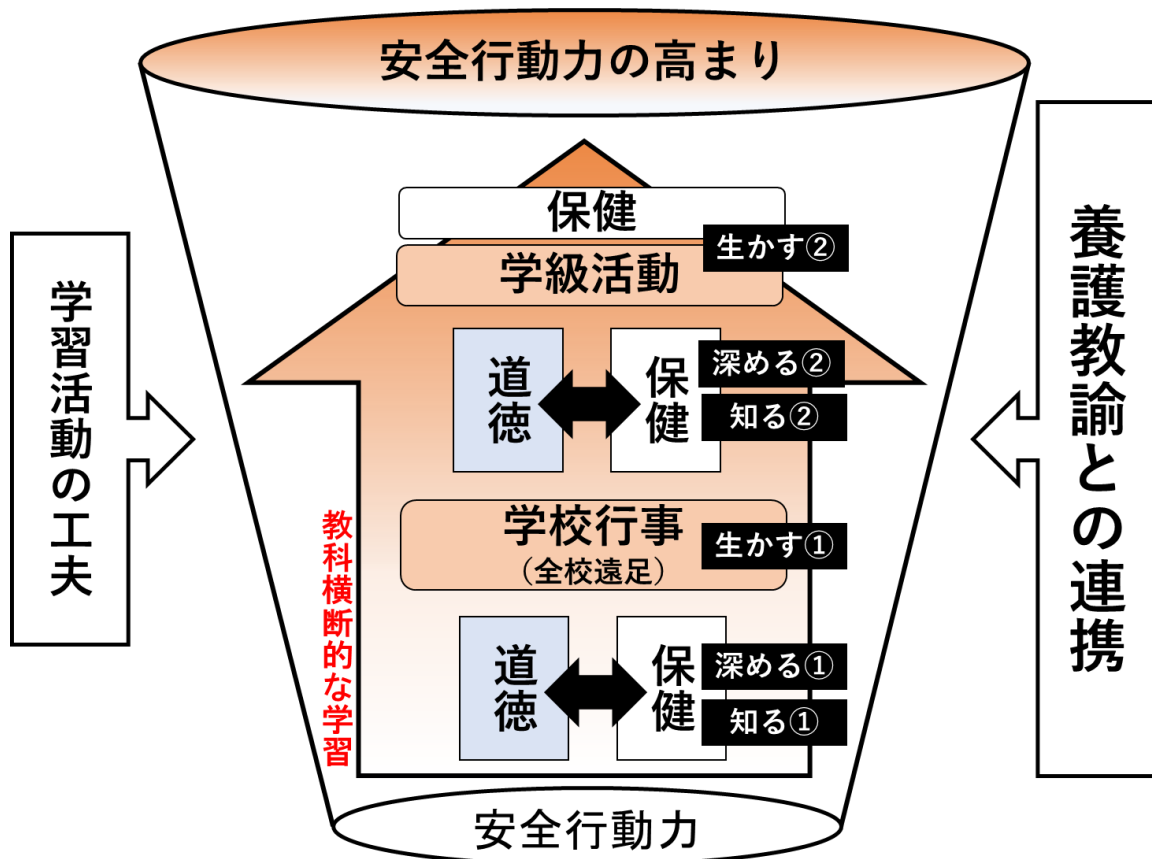


図2 安全行動力が高まった児童の姿

研究方法は、教科等横断的な保健学習の深化を目指す授業構想にそって、授業を計画・実施し、自分事として捉えるための手立て「養護教諭との連携」「学習活動の工夫」が有効であったかを、児童の様相及び記述から考察する。

## (1) 保健で学習したことが生かされ行動につながる過程の構想

高橋氏<sup>8</sup>の「健康教育のUターン構造」によれば、健康教育は、「子どもの生活や実態からスタートし、それを科学という領域まで高める。そして、必ず学習を児童の生活（保健行動）に返してあげること」が大切だとしている。併せて高橋氏は、健康教育の構想について「けがの防止」の学習を例に整理している（表3）。

| タイプ            | 授業の構想                                                                                                                | タイプの説明                                             |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| しつけタイプ         | 事故でけがをする人は、たくさんいます（生活・実態）<br>↓<br>事故やけがには注意しましょう                                                                     | 科学への高まりがないまま、直接行動を目指している                           |
| 科学中心タイプ        | 事故でけがをする人は、たくさんいます（生活・実態）<br>↓<br><b>危険を予測し、的確な判断のもと安全に行動することが大切です（科学）</b><br>↓<br>事故やけがには注意しましょう                    | 科学中心で保健行動がない。学習内容にとらわれ、それ以前の問題やその後の問題がおそろそかになってしまう |
| 健康教育の<br>典型タイプ | 事故でけがをする人は、たくさんいます（生活・実態）<br>↓<br>危険を予測し、的確な判断のもと安全に行動することが大切です（科学）<br>↓<br><b>危険な行動や場面を減らすために、対策を考えやってみよう（保健行動）</b> | Uターン構造が守られている。                                     |

表3 高橋氏の保健授業の構想例（本研究に合わせて著者加筆，再整理）

本研究では、「健康教育の典型タイプ」におけるUターン構造に基づき、教科等横断的な視点で単元を構想した（図3）。具体的な単元構想の意図は、次文に記す。

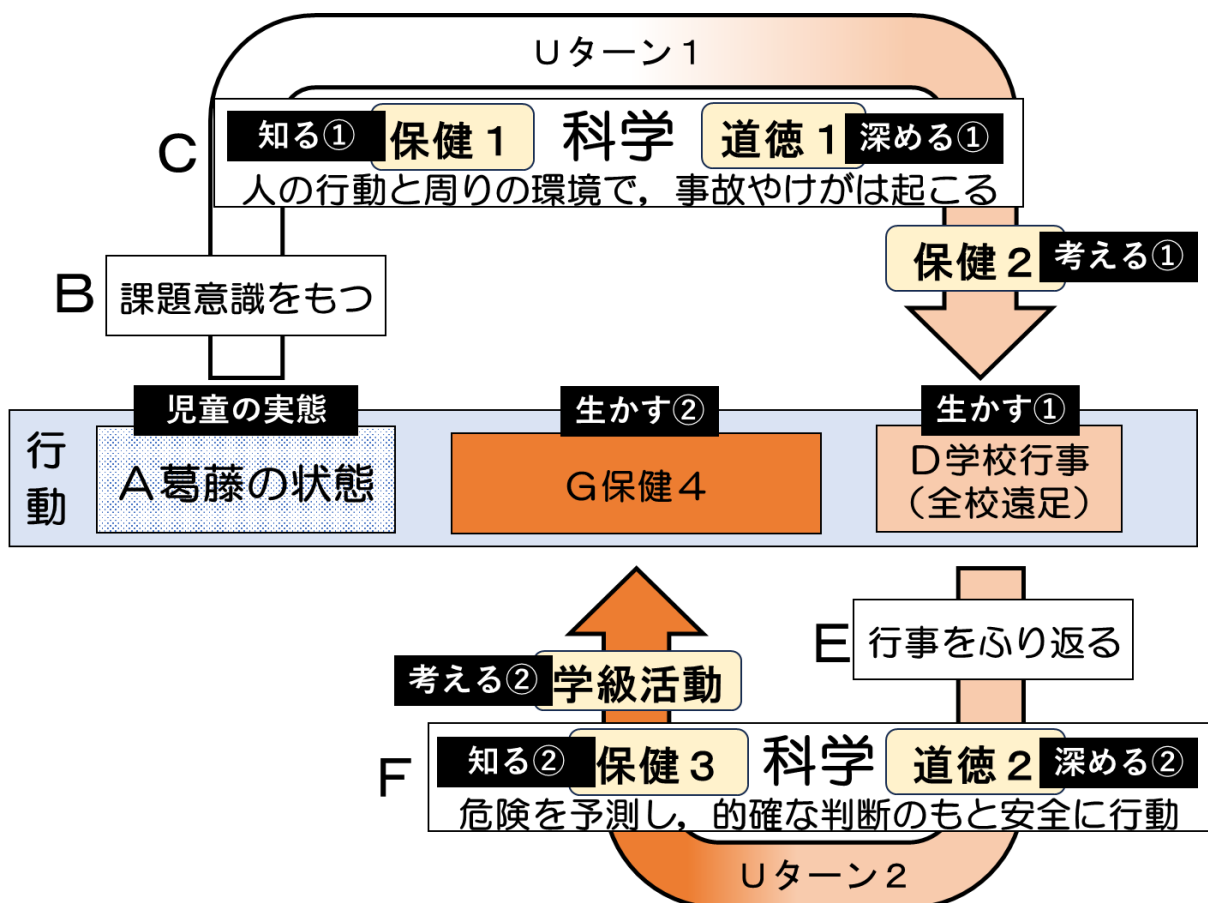


図3 Uターン構造を基にした本実践の教科横断的な単元構想

【A～D：Uターン1 知ったこと（科学）をやってみる（保健行動）】

- A 児童の実態として、「良くないことはわかっているけれど、廊下を走ってしまう」「ルールを守りたいけれど、守れない」などのような、わかっているけれど正しい判断ができない「葛藤の状態」にある。
- B この実態を踏まえ、「A 小学校の事故やけがをへらすために、できることは何だろう」という課題を設定した。理由としては、「自分の安全を守る」こと以上に「友達や下級生の安全を守る」ことを意識させた方が、児童の学習に取り組む意欲が高くなると考えたからである。
- C 科学の領域まで高める手立てとして、保健1で「けがや事故が発生する原因」について知る（知る①）ことに留まらず、そこから道徳1の学習できまりについての考えを深める学習（深める①）を設定した。保健2は、保健1と道徳2の学習を生かして、課題：「友達や自分、下級生の命を守るためにできること」を考えた。（考える①）
- D 「学習を児童の生活（保健行動）に返す」ために、学習したことを学校行事（全校遠足）でやってみる時間（生かす①）を設定した。実際に、遠足時には、課題：「友達や自分、下級生の命を守るためにできること」を考え、実施した。

【E～G：Uターン2 やってみて（保健行動）から、知ったり深めたり（科学）する】

- E 遠足後には、ふり返り：「友達や自分、下級生の命を守るためにできたことは何か」を行い、児童が次の学習に遠足での実践を生かせるようにした。
- F 科学の領域まで高める手立てとして、道徳2では、事例の役割演技を通してきまりについての考えを再度深め、（深める②）保健3では、「けがを防ぐ方法や学校の危険な場所」を知る（知る②）学習につなげた。学級活動では、道徳2と保健3の学習を生かして、課題「A 小学校・地域の事故やけがを減らすためにできることは何だろう」を考えた。
- G 「学習を児童の生活（保健行動）に返す」ために、学習したことを生かしてけがの手当をする活動を行った（生かす②）。

A～Dの学習（Uターン1）は、「知ったこと（科学）をやってみる（保健行動）」構成になっている。一方、E～Gの学習（Uターン2）は、「やってみてから（保健行動）その行動をふり返り、さらに考えを深めたり知ったりする（科学）過程を経て、再度やってみる（保健行動）」という構成にした。

令和7年9月25日に公開された中央教育審議会「教育課程企画特別部会における論点整理<sup>9</sup>」では、深い学びを実現するための分かりやすい学習指導要領の構造について議論がなされている。その中で、「ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（引用）」と記載されている。このことからわかるように、「知った後に、やってみる」とことと、「やってみた後に、知る」ことのいずれの学習も価値があると考えられる。例えば、「事故やけがは人の行動や周りの環境が原因で起こることを知ったので、遠足ではけがが起きないように声がけをしよう」という「知った上で、知ったことを生かす」とことと、「遠足の時に『危ないよ』と声かけできたことは、今日の学習の『危険予測』につながっていたんだ」という「生かしたことを、次の新しい知識に結び付けて考える」ことも有意義だということである。したがって、理論を学び実践する構成、実践したことを理論で確認する構成、そして、これらの往還（理論と実践の往還）が、生活に活用可能な高次の知識へと高めると考える。

**(2) 養護教諭との連携内容**

養護教諭の立場から、教材作成や学習指導及び学習支援で行う。その連携内容について表3に整理した。養護教諭は、T2としてT1（学級担任）と児童を直接あるいは間接的に指導サポートする。

|         | 連携内容     |                                                                   |
|---------|----------|-------------------------------------------------------------------|
| 直接的な関わり | 手当の仕方説明  | けがにおける応急手当の仕方を説明する                                                |
|         | 授業の参観    | 担任以外に「児童をよく知る先生」「心を開ける先生」が授業にすることで、子供が自分の体や心の悩みを安心して表出できる雰囲気が生まれる |
| 間接的な関わり | 資料提供     | A小学校で起きたけがの種類とそのけがをした人数を表にまとめ、提供する                                |
|         | 多面的な児童理解 | 教室とは違う児童の「保健室での姿」を担当と養護教諭が共有することで、一人一人の背景に寄り添った指導が可能になる           |

**表3 養護教諭との連携内容**

直接的な関わりは、授業の場において、養護教諭がT2として児童に直接言葉をかけ、技術を伝えることができる。間接的な関わりは、養護教諭がもつ情報や児童との関係性が授業の質を向上させたり学級担任の児童の見方を豊かにしたりすることが期待される。

**(3) 学習活動の工夫**

学習活動の工夫として、次の3つの手立てを行った（表4）。

|                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| 自分事化           | 普段の生活場面を想起させる発問や教材を使う            |
| 教科・領域と保健学習の関連化 | 保健の学習に他教科、他教科の学習中に保健の学習で習ったものを出す |
| 学習と生活の関連付け     | 児童の身近な生活をイメージしやすい活動をする           |

**表4 学習活動の工夫****4 授業の構想**

(1)ねらい 安全に対する意識を高める健康教育授業を構想する。

(2)対象 A小学校 5年生

**(3) 検証の視点**

養護教諭との連携と学習活動の工夫によって、児童の安全行動力高めることを考慮し構想する。

①教科横断的な保健学習は設計可能か

②養護教諭との連携は有効か **直接的な関わり** **間接的な関わり**

③学習活動の工夫は有効か **自分事化** **教科・領域と保健学習の関連化** **学習と生活の関連付け**

**(4) 単元の構想**

1 単元名 「保健」(2) けがの防止

2 単元目標 「A小学校の事故やけがを減らすためにできることは何だろう」

「けがの防止」に関わる教科等横断的な保健学習

3 単元計画 (全8時間)

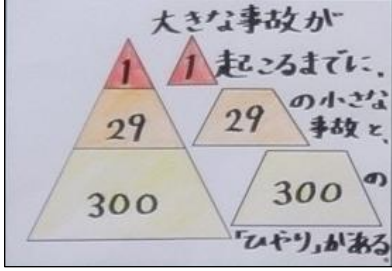
|                  |        | 単元導入                                      | 単元展開①                                             |                                                                  |                                                  |
|------------------|--------|-------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 教科・領域            |        | 1 体育 (保健領域)                               | 2 道徳                                              | 3 体育 (保健領域)                                                      | 4 全校遠足 (学校行事)                                    |
| ねらい              |        | ○けがや事故が発生する原因を知る                          | ○公共の場所ではどう行動すべきか、判断する力を育てる                        | ○事故を防ぐためにできることを考える                                               | ○事故防止につながることを実践する                                |
| 観点・内容項目          |        | 知識                                        | C 規則の尊重                                           | 思考・判断・表現                                                         | 体験活動                                             |
| 養護教諭の役割          |        | 学校でのけが資料提供                                | 授業の参観                                             | 授業の参観                                                            | 同行                                               |
| 学習活動の工夫          |        | 自分事化                                      | 学習と生活の関連付け                                        | 自分事化                                                             | 自分事化                                             |
| 学<br>習<br>活<br>動 | 導<br>入 | 学習を見通す<br>・けがや事故、「ヒヤリ」とした経験<br>・ハインリッヒの法則 | 主題について考える<br>・ルールやきまりについての考え                      | 前時までをふり返し、見直しをもつ<br>・保健、道徳での学習<br>・単元課題の確認                       | 全校遠足<br>・1～6年生の縦割り班で行動<br>・道路歩行で目的地を目指す          |
|                  | 展開①    | 小学生の事故やけがを知る<br>・学校で起こったけが                | 教材を読んで人物の心情を想像する<br>・注意された時の心情                    | 危険に気づき、防ぐ方法を知る<br>・隠れている危険<br>・事故を防ぐには                           | A小学校の事故やけがをへらすために、できることは何だろう                     |
|                  | 展開②    | 事故やけがが起きる原因を知る<br>・事例                     | 「自分なら」どうするか考える<br>めいわくにならないのであれば、きまりをやぶってもいいのだろうか | 行事に合わせた課題について考える<br>明日は、遠足。友達や自分、下級生の安全を守りたい。わたしたちにできることはあるのだろうか | ↓<br>明日は、遠足。友達や自分、下級生の安全を守りたい。わたしたちにできることはあるのかな。 |
|                  | まとめ    | 単元の課題を知る<br>A小学校の事故やけがをへらすために、できることは何だろう  | 自分を見つめ直す<br>・帰り道での心情<br>・感想                       | 考えを発表する<br>・自分たちにできること                                           | ○ふり返りの実施                                         |

|                  |        | 単元展開②                                                                      |                                           |                                           | 単元終末                                         |
|------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 教科・領域            |        | 5 道徳                                                                       | 6 体育 (保健領域)                               | 7 学級活動                                    | 8 体育 (保健領域)                                  |
| ねらい              |        | ○公共の場所ではどう行動すべきか、判断する力を育てる                                                 | ○学校や地域の事故やけがの防止に必要なことを知る                  | ○小学校や地域のけがをへらすためにできることを考える                | ○自分でできる簡単なけがの手当をする                           |
| 観点・内容項目          |        | C 規則の尊重                                                                    | 知識                                        | 思考・判断・表現                                  | 技能                                           |
| 養護教諭の役割          |        | 授業の参観                                                                      | 授業の参観                                     | 授業の参観                                     | 手当での仕方説明                                     |
| 学習活動の工夫          |        | 学習と生活の関連付け                                                                 | 学習と生活の関連付け                                | 教科・領域との関連化                                | 教科・領域との関連化                                   |
| 学<br>習<br>活<br>動 | 導<br>入 | 前時をふり返し、見直しをもつ<br>・遠足のふり返し共有<br>・めあての確認                                    | 前時をふり返し、見直しをもつ<br>・道徳、保健での学習<br>・単元課題の確認  | 前時までをふり返し、見直しをもつ<br>・保健、道徳での学習<br>・めあての確認 | これまでの学習をふり返し、見直しをもつ<br>・けがをした時の行動を想起する       |
|                  | 展開①    | 事例を基に、役割演技をする<br>・事例1「廊下を走って注意を受けた」<br>・事例2「信号無視をする下級生」<br>・事例3「車椅子マークに駐車」 | けがを防ぐ方法や工夫を知る<br>・学校や地域での危険<br>・学校や地域での工夫 | テーマについて考えを広げる<br>・個人で考える<br>・班で考えを広げる     | 手当の仕方を知り、やってみる<br>・擦り傷<br>・鼻血<br>・突き指<br>・打撲 |
|                  | 展開②    |                                                                            | 学校での危険な場所を探す<br>・危険箇所の撮影                  | テーマについて考えをまとめる<br>・班で意見をまとめる              |                                              |
|                  | まとめ    | 自分を見つめ直す<br>・感想<br>・次時への見直し                                                | 危険な場所での過ごし方<br>・解決策の話合い                   | まとめをする<br>・ふり返し                           | まとめをする<br>・ふり返し                              |

## Ⅲ 授業の実際

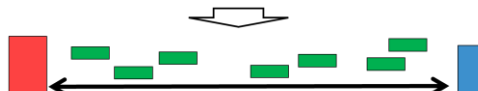
【単元導入・1時：体育（保健）】 間接的な関わり：学校でのけが資料提供 自分事化

○本時主眼：事故やけがが発生する原因を知ることができるようにする。 【知識】

| 学習活動・内容<br>養護教諭との連携（■），学習活動の工夫（□）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 児童の反応と教員との相互作用 |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1 学習を見通す</b></p> <p>(1) 事故やけが、「ヒヤリ」とした経験を共有する<br/>(2) ハインリッヒの法則の説明<br/>□事故やけがの身近さに気付かせるために、資料を掲示する</p> <div data-bbox="229 734 475 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">       ハインリッヒの法則の掲示     </div>  <div data-bbox="209 837 884 896" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">       小学生では、どんな事故やけがが起きているのでしょうか     </div> <p><b>2 小学生の事故やけがを知る</b></p> <p>(1) 小学生の交通事故や学校内での事故が多いことを知る<br/>(2) A小学校で起きたけがの種類やけがの多さを知る<br/>□身近さに気付かせるために、本校で起きたけがの資料を提示する<br/>■養護教諭による資料の作成・提供</p> <table border="1" data-bbox="644 1052 877 1328"> <thead> <tr> <th colspan="2">学校で起こったけが</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>すり傷</td><td>35人</td></tr> <tr> <td>だぼく</td><td>28人</td></tr> <tr> <td>ねんざ</td><td>10人</td></tr> <tr> <td>切り傷</td><td>10人</td></tr> <tr> <td>突き指</td><td>2人</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>11人</td></tr> </tbody> </table> <div data-bbox="394 1245 636 1328" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">       A小学校で起こったけがをまとめた資料     </div> <p><b>3 事故やけがが起きる原因を知る</b></p> <p>(1) 事例1を基に、けががおきる原因を考える</p> <div data-bbox="336 1422 877 1565" style="border: 1px solid black; padding: 10px;">       Sさんたちは、掃除の後、廊下でおにごっこを始めました。夢中でにげていたSさんは、ぬれていたところで足をすべらせ、転んでけがをしてしまいました。     </div> <div data-bbox="778 1529 842 1559" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">       事例1     </div> <p>(2) 事故やけがは、起きる原因があることを知る<br/>(3) 事例2の事故起きた原因を「人の行動」「周りの環境」「心の状態や体の調子」に分類する</p> <p><b>4 単元の課題を知る</b></p> <p>□身近さに気付かせるために、生活の様子の写真を提示する</p>  <div data-bbox="320 1906 780 1946" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">       生活の中にある事故やけがにつながる写真     </div> <div data-bbox="209 1968 884 2020" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">       A小学校の事故やけがをへらすために、できることは何だろう     </div> | 学校で起こったけが      |  | すり傷 | 35人 | だぼく | 28人 | ねんざ | 10人 | 切り傷 | 10人 | 突き指 | 2人 | その他 | 11人 | <p>T: 事故やけが、「ヒヤリ」とした経験はありませんか<br/>S: 階段で転びそうになった<br/>S: 版画を彫っている時に、指を切りそうになった</p> <p>T: <u>みなさんが経験した事故やけが</u>は、いきなり起きるわけではありません<br/>その前には「ヒヤリとしたこと」や「ちょっと危ない行動」がたくさんあります<br/>その小さな「ヒヤリ」に気づいて直すことで、大きなけがを防ぐことができます</p> <p>T: 小学生では、どんなけがや事故が起きているのか見ていきましょう</p> <p>T: 交通事故は、いつ多いでしょう<br/>S: 自動車や自転車に乗っている時<br/>T: 学校の中では、どんなけがが多いでしょう<br/>S: 校庭や体育館、階段</p> <p>T: <u>A小学校では、どんなけがが多いでしょう</u><br/>S: <u>すり傷や打撲が多い</u><br/>T: <u>どこでけがをしていると思いますか</u><br/>S: <u>校庭や体育館、階段かな</u><br/>T: <u>それは、どうしてでしょう</u><br/>S: <u>走るからだと思う</u><br/>S: <u>たくさんの人が遊んでいるからぶつかる</u></p> <p>T: 次のけがは、どうして起きたのでしょうか<br/>S: 鬼ごっこをしたから<br/>S: 廊下がぬれていたから</p> <p>T: 事故やけがは、「人の行動」や「周りの環境」が原因で起こっています。「人の行動」は、その人の「心の状態や体の調子」と関係しています<br/>T: 次の事例を3つに分けてみましょう</p> <p>T: <u>次の写真のような状態を見たことはありませんか</u><br/>S: あります<br/>T: 机の上に辞書を置いたまま、縦割り班清掃に行っています。もし、下級生の足に落ちたらどうなるでしょう<br/>T: 昼休みの体育館では、上着が落ちています。<u>もし、友達が踏んでしまったら、どうなるでしょう</u></p> <p>T: これからの学習を通して、「<u>A小学校の事故やけがを減らすためにできること</u>」について考えていきます</p> |
| 学校で起こったけが                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| すり傷                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 35人            |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| だぼく                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 28人            |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ねんざ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 10人            |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 切り傷                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 10人            |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 突き指                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 2人             |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| その他                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 11人            |  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

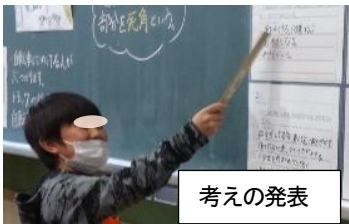
【単元展開①・2時：道徳】 **直接的な関わり：授業の参観** **学習と生活の関連付け**

○本時主眼：公共の場所では、どう行動すべきか判断する力を育てる。【C 規則の尊重】

| <p>学習活動・内容</p> <p>養護教諭との連携（■），学習活動の工夫（□）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>児童の反応と教員との相互作用</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1 主題について考える</b></p> <p>(1) ルールやきまりを守ることにについて直球発問をする</p> <p>□学校生活を想起させるために、わかっているルールを守れないことについて発問する</p> <div data-bbox="213 564 871 618" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ルールやきまりを大切にするには</p> </div> <p><b>2 教材を読んで人物の心情を想像する</b></p> <p>(1) 注意された時の心情について考える</p> <p><b>3 「自分なら」どうするか考える</b></p> <p>(1) 個人で考え、意思表示をする</p> <div data-bbox="197 972 877 1348" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>【一人で考える】めいわくにならないのであれば、きまりをやぶってもいいのかな？</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #f08080; padding: 5px; border: 1px solid black;"> <p><b>やぶってもいい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば～、もしも、</li> <li>・なぜなら から。</li> <li>・ と思う。</li> </ul> </div> <div style="background-color: #8080ff; padding: 5px; border: 1px solid black;"> <p><b>やぶってはいけない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば～、もしも、</li> <li>・なぜなら から。</li> <li>・ と思う。</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <p style="text-align: center;">授業スライド資料</p> </div> <p>(2) ペアで意見交流をする</p> <p><b>4 自分を見つめ直す</b></p> <p>(1) 帰り道での心情について考える</p> <p>(2) 感想を書く</p> | <p>T:ルールやきまりは、大切だと思いますか</p> <p>S:大切。当たり前</p> <p>(大切と全員が感じていることを挙手で確認した)</p> <p>T:<b>大切なことはわかっているけれど、守れないこともありますか</b></p> <p>S:あります</p> <p>T:今日は、どうしてルールやきまりが大切なのかを考えていきます</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教材文を読む（題材名：「図書館はだれのもの」）</p> <p>T:図書館で騒いでしまい、注意された時のみちおさんはどんな気持ちでしょう</p> <p>S:「うるさいな」</p> <p>S:「注意の声の方がうるさい」</p> <p>S:「謝りたくないな」</p> <p>S:「そんなに強く言わなくても」</p> <p>T:<b>めいわくにならないのであれば、きまりをやぶってもいい</b>と思いますか</p> <p>T:自分の意見を黒板に貼りましょう</p> <p>S:けがやめいわくにつながらないならいいんじゃない</p> <p>S:ルールを守れない大人になってしまう</p> <p>S:公共施設は、自分だけのものではない</p> <p>S:みんなのもの</p> <p>S:ルールは、自分のためにもあると思う</p> <div data-bbox="1203 981 1474 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p style="text-align: center;">意思表示の場面</p> </div> <div data-bbox="1203 1240 1474 1429" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p style="text-align: center;">ペアでの交流</p> </div> <p>T:「わたし」にすっきりしない気持ちが残ったのはなぜでしょう</p> <p>S:悪いのはわたしたちのはずなのに、注意した大学生をみんなが悪く言うから</p> <p>S:「みんなと大学生、どっちが正しかったんだろう」</p> <p>T:感想を書きましょう</p> <div data-bbox="909 1711 1474 2004" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人の時もルールは絶対守る。</li> <li>・公共施設では、決まりを守って遊ぶ。</li> <li>・ほかに誰もいなくてもきまりを守る。</li> <li>・おしゃべり×で、どうしても話さないといけないことは、紙に書いて相談してみます。</li> <li>・やっぱりルールを守ることって大事なな。</li> <li>・どんなところでも、ルールを守れるようにしたい。</li> <li>・だれかに言われて守るのではなく、自分で気づいていきたい。</li> </ul> </div> |

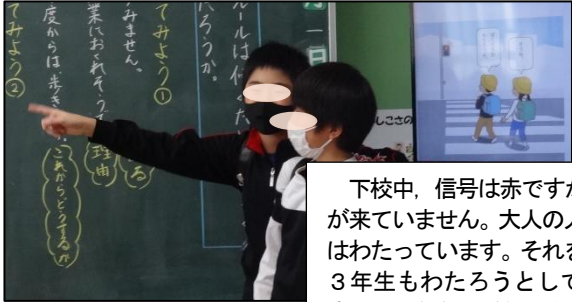
【単元展開①・3時：体育（保健）】 **直接的な関わり：授業の参観** **自分事化**

○本時主眼：交通事故を防ぐためにできることを考える。【思考力・判断力・表現力】

| <p>学習活動・内容</p> <p>養護教諭との連携（■），学習活動の工夫（□）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <p>児童の反応と教員との相互作用</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1 前時までをふり振り返り，見通しをもつ</b></p> <p>(1) 保健，道徳の学習をふり返る</p> <p>(2) 単元の課題を確認する</p> <p>(3) 本時の課題を知る</p> <p>□身近さを感じさせるために，行事に関連した課題を提示する</p> <div data-bbox="204 533 879 613" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>明日は，遠足。友達や自分，下級生の命を守るためにできることは何でしょう</p> </div> <p><b>2 隠れている危険に気づき，防ぐ工夫を知る</b></p> <p>(1) 事例1「信号のない横断歩道」</p> <div data-bbox="389 757 863 875" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈事例1〉<br/>横断歩道を渡ろうとしている児童と，停車している後ろから来ているバイク</p> </div> <p>(2) 事例2「歩道での自転車乗車」</p> <div data-bbox="389 943 858 1061" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈事例2〉<br/>自転車で通行してよい歩道だが，前方には集団の歩行者と，ながらスマホの歩行者</p> </div> <p>(3) 事例3「トラックの死角」</p> <div data-bbox="389 1128 855 1247" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈事例3〉<br/>自転車乗車中に，信号でトラックが左折。トラックの運転手は，私に気付いていない</p> </div> <p>(4) 事故を防ぐための工夫を知る</p> <p><b>3 行事に合わせた課題について考える</b></p> <p>(1) 遠足で，友達や自分，下級生の命を守るためにできることを班で話し合う</p> <p>□遠足を想定した課題を出す</p> <div data-bbox="210 1520 630 1771" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5 班<br/>考えられること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路を歩いている時，友達と話さなくて横に2列，3列・・・広がって歩いている。<br/>わたしは歩けること</li> <li>・1列になろうね！</li> <li>・白い線からはみでるといけないよ。</li> <li>・広がらないでね！</li> </ul> </div> <div data-bbox="699 1615 884 1693" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>班での話し合い<br/>ボード</p> </div> <p><b>4 考えを発表する</b></p> <div data-bbox="534 1789 884 2011" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>考えの発表</p> </div> | <p>T: <b>保健では</b>，事故やけがの起こり方，<b>道徳では</b>，ルールやきまりの大切さを学びました</p> <p>T: 単元の学習を通して，「A 小学校の事故やけがを減らすためにできること」を考えるとしていました</p> <p>T: 今日，<b>遠足で友達や自分，下級生の命を守るためにできること</b>を見つけましょう</p> <p>T: 信号のない横断歩道には，どんな危険が隠れているでしょう</p> <p>S: バイクは歩行者に気付いていないかもしれない</p> <p>T: 歩道での自転車乗車には，どんな危険が隠れているでしょう</p> <p>S: 歩いている人にぶつかるかもしれない</p> <p>T: トラックが左折してきた時には，どんな危険が隠れているでしょう</p> <p>S: トラックの後ろのタイヤが人にぶつかりそう</p> <p>T: 運転手から見えない部分を「死角」と言います</p> <p>T: 反射材や自転車専用レーンは，どうして事故を防ぐために役立つでしょう</p> <p>S: 反射材は，暗くても目立つ。自転車専用レーンは，歩人や自動車のめいわくにならない</p> <p>T: <b>遠足で，友達や自分，下級生の命を守るためにできること</b>は何でしょう</p> <p>S: 優しく声をかける</p> <p>S: お手本になる</p> <p>S: 「1列になろうね」と声をかける</p> <p>S: 「白い線からはみ出ると危ないよ」と声をかける</p> <p>T: 班で出し合った意見を発表してください<br/>(発表後に，他の班に質問)</p> <p>S: 「列を途中で切る」とはどういうことですか</p> <p>S: 横断歩道を渡っている時に車が来たら，班のメンバーが全員渡っていなくてもそこで止まる</p> <p>T: <b>明日の遠足で，実際にやってみましょう</b></p> |

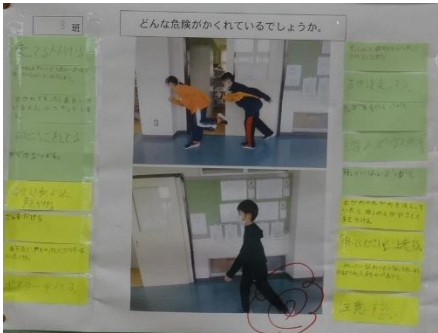
【単元展開②・5時：道徳】 **直接的な関わり：授業の参観** **学習と生活の関連付け**

○本時主眼：公共の場所では、どう行動すべきか判断する力を育てる。【C 規則の尊重】

| <b>学習活動・内容</b><br>養護教諭との連携（■），学習活動の工夫（□）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 児童の反応と教員との相互作用                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1 前時をふり返り，見通しをもつ</b></p> <p>(1) 遠足後に書いたふり返りを共有する<br/>                     □本時と遠足での行動をつなぐために，ふりかえりをする<br/>                     (2) めあての確認する</p> <div data-bbox="212 566 884 618" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         ルールは何のためにあるのでしょう                     </div> <p><b>2 事例を基に，役割演技をする</b></p> <p>(1) 事例1「廊下を走って注意を受けた」</p> <div data-bbox="517 826 861 1003" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">                         授業におくれそうです。でも先生より早く教室に入らないと。急いでいると，他のクラスの先生に注意をされました。みんなならなんと言いますか。                     </div> <p>(2) 事例2「信号無視をする下級生」</p> <div data-bbox="213 1146 786 1447" style="display: flex; align-items: center;">  <div data-bbox="517 1308 861 1485" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-left: 10px;">                         下校中，信号は赤ですが，車が来ていません。大人の人たちはわたっています。それを見た3年生もわたろうとしています。みんなならどうしますか。                     </div> </div> <p>(3) 事例3「車椅子マークに駐車」</p> <div data-bbox="517 1626 861 1832" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">                         スーパーの入り口近くに障がい者専用の駐車スペースがありました。4つとも空いているし，使ってもいいのではと思いました。お母さんは何て言ったと思いますか。                     </div> <p><b>3 自分を見つめ直す</b></p> <p>(1) 自分の「これから」について書く<br/>                     (2) 次時への見通しをもつ</p> | <p>T: <b>遠足の後に書いたふり返りを紹介しましょう</b><br/>                     S: 下級生を内側にして歩くことができた<br/>                     S: 車が来たとき，「もっと右によって」とみんなに声をかけることができた</p> <p>T: 今日，「ルールが何のためにあるのか」について考えます</p> <p>T: 廊下を走って注意を受けた時，みんなはなんと言いますか</p> <div data-bbox="916 804 1155 987" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         〈役割演技〉<br/>                         S: 廊下を走っちゃだめだろう<br/>                         S: すみません<br/>                         S: 授業におくれそうで<br/>                         S: 今度からは歩きます                     </div> <div data-bbox="1177 748 1469 987" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1187 994 1453 1055" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         先生役と児童役に分かれて演技する様子                     </div> <p>T: 信号無視する下級生。みんなならどうしますか</p> <div data-bbox="916 1207 1155 1391" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         〈役割演技〉<br/>                         S: ぼくたちもわたろうよ（引き止める）<br/>                         S: 危ないよ，だめだよ<br/>                         S: 青になったから，一緒に行く                     </div> <div data-bbox="1177 1099 1469 1397" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1187 1406 1453 1469" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         3年生役と5年生役に分かれて演技する様子                     </div> <p>T: 車椅子マークに駐車してもいいと思った「ぼく」お母さんは，何て言ったと思いますか</p> <div data-bbox="916 1671 1155 1917" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         〈役割演技〉<br/>                         S: 障がい者の人が使う専用の駐車スペースだからだめだよ<br/>                         S: もし，障がいをもつ人が，スーパーに来た時に駐車スペースが空いていないと，遠くまで行かなければいけないからだよ                     </div> <div data-bbox="1177 1509 1469 1778" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1187 1787 1453 1850" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         お母さん役と5年生役に分かれて演技する様子                     </div> <p>T: 自分の「これから」について書きましょう</p> |

【単元展開②・6時：体育（保健）】 **直接的な関わり：授業の参観** **学習と生活の関連付け**

○本時主眼：学校や地域の事故やけがの防止に必要なことを知る。【知識】

| <p><b>学習活動・内容</b></p> <p>養護教諭との連携（■）、学習活動の工夫（□）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>児童の反応と教員との相互作用</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1 前時までをふり振り返り、見通しをもつ</b></p> <p>(1) 前時の道徳の学習をふり返る</p> <p>(2) 単元課題・めあての確認</p> <div data-bbox="204 477 882 533" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学校や地域でのけがを防ぐには、どうすればよいでしょう</p> </div> <p><b>2 事例を基に、けがを防ぐ方法や工夫を知る</b></p> <p>(1) 事例1「学校の廊下」</p> <div data-bbox="501 651 882 763" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈事例1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左側を走る児童</li> <li>・手洗い場の雑巾から滴る水</li> </ul> </div> <p>(2) 事例2「点字ブロック上の自転車」</p> <p>(3) 事例3「川で遊ぶ」</p> <div data-bbox="501 869 871 1016" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈事例2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点字ブロックの上の自転車</li> <li>・視覚障害者が歩いてくる</li> <li>・ベビーカーを押すお母さん</li> </ul> </div> <p>(4) 学校や地域での工夫</p> <p><b>3 学校の危険な場所を探す</b></p> <p>(1) 危険な場所の撮影をする</p> <p>□学校の危険な場所での過ごし方を「良い例」「悪い例」に分けてそれぞれ撮影する</p> <div data-bbox="209 1272 547 1514" style="display: inline-block;">  </div> <div data-bbox="555 1272 887 1552" style="display: inline-block;">  </div> <div data-bbox="233 1523 544 1552" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>児童が撮影した危険な場所写真</p> </div> <p><b>4 危険な場所での過ごし方を話合う</b></p> <p>(1) 解決策の話合い</p> <div data-bbox="212 1673 651 2004" style="display: inline-block;">  </div> <div data-bbox="659 1899 868 2004" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>撮影した写真に解決策を付箋で書き込む</p> </div> | <p>T:今日は、学校や地域でのけがを防ぐには、どうすればよい考えます</p> <p>T:次の事例には、どんな危険が隠れているでしょう</p> <p>S:廊下の左側を走っている（原因）</p> <p>S:雑巾から水が垂れている（原因）</p> <p>S:友達に声をかけられているから、気付かずに踏んで転びそう</p> <p>S:点S:字ブロックの上に自転車が置いてある（原因）</p> <p>S:目の見えない人が気づかずにぶつかる</p> <p>S:ベビーカーの方に自転車がたおれそう</p> <p>S:子どもだけで川に入っている（原因）</p> <p>S:山の方に雷が見えるので、この後、水量が増える</p> <p>T:学校や地域では、安全点検や危険なところの修理など、環境の整備をしています</p> <p>T:「どんな危険が隠れているでしょう—A小学校編—」を作ります</p> <p>T:危険が隠れている場所は例えば、どこでしょう</p> <p>S:階段や廊下</p> <p>T:班で撮影場所を決め、良い例と悪い例の写真を撮りましょう</p> <p>T:撮影した写真について解決策を考えましょう</p> <p>〈校庭につながる階段〉</p> <p>S:階段があるのに、土手を降りると、目の前のベンチに勢いよくぶつかってけがをする</p> <p>S:だから、階段をゆっくり降りた方がいいね</p> <p>〈廊下〉</p> <p>S:廊下を走って、1年生とぶつかってしまうと大けがをさせてしまう</p> <p>S:だから、廊下は右側を歩くべき</p> <p>T:次回は、「A小学校や地域の事故やけがを減らすためにできること」を考えてまとめます</p> |

【単元展開②・7時：学級活動】

直接的な関わり：授業の参観

教科領域との関連付け

○本時主眼：小学校や地域のけがを減らすためにできることを考える。【思考力・判断力・表現力】

| <p><b>学習活動・内容</b></p> <p>養護教諭との連携（■），学習活動の工夫（□）</p>                                                                                                                            | <p>児童の反応と教員との相互作用</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1 これまでの学習をふり振り返り、見直しをもつ</b></p> <p>(1) 各教科での学習を確認する</p> <p>(2) 単元課題を確認する</p> <p>A 小学校・地域の事故やけがを減らすためにできることは何だろう</p>                                                      | <p>T:保健では、けがや事故の原因を知り、交通事故や学校・地域でのけがや事故の防止に必要なことを考えました</p> <p>T: 道徳では、「めいわくにならなければきまりをやぶってもいいのか」を考え、実際にきまりを破ってしまいそうな場面の役制演技も行いました</p> <p>T:今日は、これまでの学習を生かして、「A 小学校・地域の事故やけがを減らすためにできること」を考えます</p>                                                                                                                                              |
| <p><b>2 テーマについて考えを広げる</b></p> <p>(1) 一人ずつ意見を出す</p> <div data-bbox="204 759 686 1057"> </div> <p>(2) 班で意見を広げる</p> <div data-bbox="204 1122 686 1467"> <p>付箋に書いたことを共有</p> </div> | <p>T:まず、一人ずつ意見を付箋に書いて出します</p> <p>S:声がけをする</p> <p>S:委員会が注意をすれば、全校に届く</p> <p>S:「それは危ないよ」と声をかける</p> <p>S:校舎をきれいに使おうポスターをはる</p> <p>T:出された意見に質問したり答えたりしましょう</p> <p>S:「ゴミを拾う」ことはどうして、けがを減らすことにつながるの</p> <p>S:滑って転ぶかもしれないから。きれいな校舎になれば、けがが減ると思う</p> <p>S:「地域の人にあいさつをする」ことはどうしてけがを減らすことにつながるの</p> <p>S:危ないところを知らないと、けがをするから、地域の人に教えてもらえるようにあいさつをする</p> |
| <p><b>3 テーマについて考えをまとめる</b></p> <p>(1) 班の意見をまとめる</p> <div data-bbox="204 1547 686 1879"> <p>班でまとめた意見</p> </div> <p><b>4 まとめをする</b></p>                                          | <p>T:班で話し合ったことを基にして、まとめをします</p> <p>T:「A 小学校の事故やけがを減らすためには」に続く言葉を考えましょう</p> <p>S:一人ひとりが注意し、自分もちゃんとお手本になる</p> <p>S:右側を歩くことを全校一人ひとりが取り組む</p> <p>S:危険なことをしない。ポスターや放送で呼びかける</p> <p>S:危険なところに気を付けるよう、声がけをする</p> <p>T:今回考えたことをこれからの生活に生かしていきましょう</p>                                                                                                  |

【単元展開②・8時：体育（保健）】 **直接的な関わり：手当の仕方説明** **教科領域との関連付け**

○本時主眼：自分でできる簡単なけがの手当をする。【技能】

| <p>学習活動・内容</p> <p>養護教諭との連携（■），学習活動の工夫（□）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <p>児童の反応と教員との相互作用</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1 前時までをふり振り返り，見通しをもつ</b></p> <p>(1) けがをした時の行動を想起する</p> <p>■□身近さに気付かせるために，よく起こるけがや保健室の機能について養護教諭が説明する</p> <p>(2) めあてを知る</p> <div data-bbox="236 611 812 663" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>簡単なけがの手当てができるようになろう</p> </div> <p><b>2 手当の仕方を知り，やってみる</b></p> <p>■養護教諭が身近な事例を基に，手当の仕方を説明する</p> <p>(1) すり傷</p> <div data-bbox="212 792 564 1025">  </div> <div data-bbox="576 913 879 1025" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ブランコで遊んでいたら転んでしまったので，血を拭いて絆創膏を貼った</p> </div> <p>(2) 鼻血</p> <div data-bbox="212 1099 564 1355">  </div> <div data-bbox="576 1249 879 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>鼻血が出たので，垂れてこないように，上を向いてティッシュを詰めました</p> </div> <p>(3) 突き指</p> <div data-bbox="212 1406 564 1662">  </div> <div data-bbox="576 1550 879 1662" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ボールで遊んでいたら，突き指をしてしまった</p> </div> <p>(4) 打撲</p> <div data-bbox="212 1713 564 1951">  </div> <div data-bbox="576 1848 879 1960" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>椅子から落ちて頭を打った。たんこぶができたけだ</p> </div> <p><b>3 まとめをする</b></p> | <p>T: <u>次のようなけがをしたとき，どうしますか</u></p> <p>T: 「膝を擦りむいたとき」</p> <p>S: 絆創膏をはる</p> <p>S: 保健室に行く</p> <p>T: 「頭を打ったとき」</p> <p>S: 保健室に行って，氷で冷やす</p> <p>T: 保健室は病院と違い，けがを治すことはできません</p> <p>T: <u>けがの種類やけがの程度を観察・判断しています</u></p> <p>T: 自分や友達，下級生がけがをしたときに，簡単な手当ができるようにしましょう</p> <div data-bbox="1230 689 1476 1016" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>養護教諭の説明</p> </div> <p>T: ブランコで遊んでいたら転んでしまいました。なので，血を拭いて絆創膏をはりました</p> <p>T: これで，大丈夫でしょうか</p> <p>S: 水道水で洗ったほうがいい</p> <p>T: よごれが残っていると，細菌が入って悪化してしまいます</p> <p>T: やってみましょう</p> <p>T: 鼻血が出ました。垂れてこないように，上を向いてティッシュを詰めました</p> <p>S: 上を向くと，血がのどの方へいきそう</p> <p>T: 少し下を向いて鼻の付け根をおさえます</p> <p>T: やってみましょう</p> <p>T: ボールで遊んでいたら，突き指をしてしまいました</p> <p>S: <u>指を引っ張ればいい</u></p> <p>T: <u>指を引っ張って治そうとする人がいますが，やってはいけません</u></p> <p>S: 突き指したところを「冷やす」「高く挙げる」「安静にする」ことが大切です</p> <p>T: やってみましょう</p> <p>T: 椅子から落ちて頭を打ちました。たんこぶができたけだけのようです</p> <p>S: たんこぶができたけなら，何もなくていい</p> <p>T: 打撲をした時は，冷やしたり心臓より高い位置に上げたりして，安静にすることが大切です</p> <p>T: やってみましょう</p> <p>T: <u>頭を打った場合は，重大な怪我につながることもあるので，先生とおうちの人に必ず伝えましょう</u></p> |

#### IV 考察

##### 1 「児童の安全行動力を高めることができたか」について

###### (1)教科等横断的な保健学習は設計可能か

教科等横断的な学習 をすることによって、保健・他教科の学びを相互に生かすこと をねらった。

第2時の道徳の学習では、まとめ場面で本時の感想を書いた。その中で、「迷惑にならなくても、きまりをやぶってはいけない」と考える理由として、表5のような記述をした児童がいた。このことから、第1時：保健での「けがの発生原因を知る」学習を生かすことができていたと考えられる。

めいわくにならなければ、きまりをやぶってもいいのか  
みんなのため、自分のためにきまりは必要。例えば、「廊下を走ってはいけない」のは、転んだりぶつかったりした時の衝撃が全然違うから。歩いていたら、軽いけがですむ。  
みんなが使うところだし、けがにつながる。本当に緊急事態のときは、やぶってしまうかもしれない。

表5 道徳の学習ノート記述

第3時の保健では、「遠足で友達や自分、下級生の命を守るためにできること」を3つの課題から考えた。第4時の全校遠足では、第3時の学習を生かした保健行動ができるように担任から声をかけた。その結果、表6のようなつながり・変容がみられた。

| 第3時：保健                                    |                                                                                                                                                                                           | 第4時：全校遠足 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題：道路を歩いている時、友達と話をしたくて横に2列、3列・・広がって歩いています |                                                                                                                                                                                           |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 学習ノート                                     | <ul style="list-style-type: none"><li>・優しく言う、声をかける（注意する）</li><li>・「1列になろうね」</li><li>・「白い線からはみでるといけないよ」</li><li>・「広がらないでね」</li><li>・お手本になる</li></ul>                                       | ふり返り     | <ul style="list-style-type: none"><li>・1年生と歩いている人に「1年生を内側にした方がいいよ」とアドバイスをした</li><li>・下級生を内側にして歩くことができた</li><li>・「白い線からはみ出ないでね」と声をかけた</li><li>・後ろを見ながら歩かないようにした</li><li>・広がらないで歩けた</li><li>・列が切れないようにした</li><li>・1列で歩くようにした</li><li>・まっすぐ車いすをおすことができた</li></ul>                                                                      |
| 課題：前から車が来ています。列の後ろの人は、まだ気づいていません          |                                                                                                                                                                                           |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 学習ノート                                     | <ul style="list-style-type: none"><li>・「<u>今、車来るよ。</u>」と声をかける</li><li>・<u>後ろの方へ走っていき、気付かせる</u></li><li>・下学年を<u>内側</u>にして歩く</li><li>・「<u>1回止まって左右を確認してください</u>」と言う</li><li>・列を切る</li></ul> | ふり返り     | <ul style="list-style-type: none"><li>・友達と一緒に、「<u>車が後ろから来た</u>から気を付けてね」と教えることができた</li><li>・どこから車が来たかなど、くわしく大きな声で<u>前後の人に伝えられた</u></li><li>・車が来たときに優しく教えてあげることができた</li><li>・車が来たとき、「<u>もっと右によって</u>」とみんなに声をかけることができた</li><li>・友達が道路に出そうになった時、歩道側よせた</li><li>・車がきたとき、<u>小さい声だけと言えた</u></li><li>・「車がきたから、<u>端によるよ</u>」と声をかけた</li></ul> |
| 課題：横断歩道を渡っている時、車が来ました。まだ全員わたりきれそうにありません   |                                                                                                                                                                                           |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 学習ノート                                     | <ul style="list-style-type: none"><li>・「<u>車が来ているから1回止まって</u>」と声をかける</li><li>・渡っている人だけ行って、まだ渡り始めている人は行かない。</li><li>・前の人が判断して止まり、自動車を優先させる</li></ul>                                       | ふり返り     | <ul style="list-style-type: none"><li>・「<u>車が来たから止まってね</u>」と声をかけることができた</li><li>・下級生が<u>転ばない</u>ように、「ここ気を付けてね」と言えた</li></ul>                                                                                                                                                                                                        |

表6 保健の学びを生かしている児童

第3時に書かれたことを行っている児童もあり、学習したことが生かされていることがわかる。さらに、実際に行ったことで、より詳しい場面・状況を説明できるようになっている。また、友達や下級生を意識した行動が多いことから、教科等横断的な学習には「遠足で友達や自分、下級生の命を守るためにできること」のような課題を設定することも効果的であると考えられる。

## (2) 養護教諭との連携は有効か

養護教諭と連携 をすることによって、健康に関わる知識・技能、考え方・願いの強化 をねらった。

第1時の保健では、関節的な関わりとして、養護教諭はA小学校で起きたけがの種類とそのけがをした人数をまとめた表を提供した。「どこでけがをしていると思うか」という発問によって、児童が教科書にある全国の資料を基に、校庭や体育館でけがが多いのではないかと気付くことつながっていた。

第8時の保健では、直接的な関わりとして、養護教諭は手当の仕方を説明した。この活動の特徴は、

- ① 児童にとって最も身近な専門家である養護教諭がT1を務めること（保健室の機能や事例の説明）
- ② 誤った既習感や思い込みを正す養護教諭との対話（「上を向く」「指を引っ張る」等の修正）
- ③ 実際に即した手当のシミュレーション

である。養護教諭は実演を交えながら正しい手順を提示し、児童がその場で実践した。また、鼻血の際に「上を向くと血がのどにいきそう」といった児童の気付きを引き出したり、頭を打った際に「先生や家の人に必ず伝える」という重大な事故を防ぐための行動規範を伝えたりした。専門職による直接的な関わりによって、単なる知識の記憶に留まらず、状況を判断して「正しい手当」を選択し実践しようとする能動的態度につながったと考える。また、養護教諭が授業に参加することで、言葉による指導・支援がない時でも関わりや見守りによって、児童の安心感につながる様子も見られた。

## (3) 学習活動の工夫は有効か

学習活動の工夫 をすることによって、事象・ **図4 養護教諭の直接的関わり**の意義

第1時では、「自分事にする活動」の工夫として、実際の休み時間の様子を撮った写真を提示した。その後、単元のテーマ「A 小学校の事故やけがをへらすためにできることは何だろう」を設定したことにより学習を自分事として捉えることができたと考える。

第3・7時では、「教科・領域と保健学習を関連させる」工夫として、これまで学習したことをふり返った。その結果、第7時では、学習の中で「交差点の横断歩道の前には、段差があるから気を付けてと呼びかける」「廊下は、前を見て歩こうと声をかける」などのように、道徳で下級生に声をかける役割演技をした時を想起させる記述が見られた。これらのことから、他教科・領域の学びが保健学習と関連付けられていることが示唆された。

第5・6時では、「学習と生活を関連付ける活動」の工夫として、役割演技や学校の中の危険な場所探しを行った。その結果、第5時では、生活をよりイメージするためにランドセルを背負って演技をする児童の様子が見られた。第6時では、普段通っている廊下や階段も過ごし方によって危険な場所になってしまいうことに気付き、「階段では、ジャンプをしない」「廊下は右側を歩く」など、けがを防ぐ方法についてより具体的な生活の場面を意識した記述が見られた。

これらのことから、学習活動を工夫することは、事象・事項との関連化を高めることができると考える。

## V まとめ

本研究の目標は、「養護教諭との連携と学習活動の工夫を通して、『けがの防止』に関わる教科横断的な保健学習の在り方」を究明することである。

### 1【教科等横断的な保健学習は設計可能か】

保健、道徳、学校行事、学級活動を合わせた教科等横断的な保健学習は、安全力を高めるために有効であることが示唆された。保健で知ったことを道徳で深め、さらに学級活動やまた保健で考えるといった設計を可能にした。特に、保健授業を要とし、他教科等を「発揮する・生かす・行動につながる過程」として組み合わせたことにより「保健の学びを生かしている児童」を表出できた。

### 2【養護教諭との連携は有効か】

養護教諭との連携により、児童の安全に関わる知識・技能、思考・判断・表現の資質能力の向上に有効であった。特に、教科書の一般的な事項知識を本校の状況として資料作成・提供することで児童の身近な事実事項として捉えることにつながった。また、養護教諭の専門的知見や健康意識の高さが「児童への願い」「見守り」として伝わることで児童と学校、あるいは担任教員への親和性を深めることにつながった。

### 3【学習活動の工夫は有効か】

学習活動の工夫により、「安全」の視点で地域や自分の事象・事項と関連することに有効であった。特に、教科領域と保健学習を関連化する活動の工夫によって、学びの連続性と必要性が担保され児童の学習への興味関心の高まりが見られた。

研究構想の段階では、道徳の学習は保健の学習を「深める」機能、学級活動の学習は保健学習の「考えを広げる」「考えを深める」機能として実施した。しかし、児童が道徳の役割演技の中で保健学習の学びを生かしている様子も見られた。学級活動でも同じように保健での学習が直接生かされている場面があった。

このことから、教師が意図をもち、関連性を見出しながら教科等横断的な学習を行うことで、「知る」「深める」「考える」機能として行った学習も、これまでの学習を「生かす」場として機能していたと考えられる。また、教師が意図して教科等横断的な学習を構成すれば、児童は他教科での学びを生かそうとする姿勢を見せる可能性が示唆された。

## 引用・参考文献

- 1 内閣府 (2024) 「令和7年交通安全白書(全文) 第1節 状態別にみた小学生の交通事故の状況」  
[https://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/r07kou\\_haku/zenbun/genkyo/feature/feature\\_1\\_1.html](https://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/r07kou_haku/zenbun/genkyo/feature/feature_1_1.html)  
(2026年3月14日閲覧)
- 2 青森県警察 (2026) 「歩行中の交通事故防止について」 青森県警察交通企画課 HP「交通事故統計」内  
[https://www.police.pref.aomori.jp/koutubu/koutu\\_kikaku/toukei.html](https://www.police.pref.aomori.jp/koutubu/koutu_kikaku/toukei.html) (2026年3月14日閲覧)
- 3 文部科学省(2017)【体育編】小学校学習指導要領解説 p. 21
- 4 文部科学省(2019)小学校保健教育参考資料 改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引 pp.91-92  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1334052.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1334052.htm)
- 5 文部科学省(2017)【総則編】小学校学習指導要領解説 pp. 71-72
- 6 井上朋子(2010)「図画工作科と音楽科における合科的な指導の類型化とその可能性」
- 7 二橋拓哉(2024)「教科等横断型授業に関する諸概念と実践の整理」
- 8 高橋浩之 (1996) 「健康教育への招待 ―保健体育教師、養護教諭、学級担任のために―」 pp. 38-41

(受付：2026年3月23日)

柴田学園研究紀要 第6巻 第1号

---

令和8年9月30日 発行

編 集 者

柴田学園大学 紀要編集委員会

発 行 者

学校法人 柴田学園

代 表 者

高橋 誠記(学校法人 柴田学園 理事長)

〒036 - 8503 青森県弘前市上瓦ヶ町 25

電話 0172 - 32 - 6200

---

# ANNUAL REPORT OF SHIBATA GAKUEN

## Vol.6 No.1

### CONTENTS

|                                                                                                                                                                                                               |    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| Takuya NARA : Ingenuity in the “Mathematics, Data science, and AI” Education<br>at Shibata Gakuen University .....                                                                                            | 1  |
| Atsuko EBINA, Yumiko OKAMOTO, and Yasuko KIMURA :<br>Interdepartmental Collaborative Classes<br>Built from a Courtyard Improvement Project:<br>A Case Study at Shibata Gakuen University Junior College ..... | 11 |
| Hideto UENO, Koki TANAKA : Content Organization of Health Education in Anticipation<br>of the Next Course of Study<br>— An Analysis Based on the Published Summary of Issues — .....                          | 24 |
| Hideto UENO, Koki TANAKA : Cross-Curricular Health Education in Injury Prevention<br>— Through Collaboration with Yogo Teachers — .....                                                                       | 35 |